

# 17<sup>th</sup> ASC 報告書

## \* 団長挨拶

今回の ASC の参加者は 28 人でした。内 4 回生 1 人だけで、あとは全員が 1, 2 回生でプログラム参加者も数人という状況でした。僕自身も、プログラム参加は初めてで海外に行くのも初めてだったので当初は不安でいっぱいでした。そんな中でも特に大きな怪我や病気もなく過ごせたのは参加者がしっかり意識して過ごしてくれたからだと思います。また、今回は例年以上に九州参加者が多いということで、九州支部で固まってしまうのではないかと懸念もありました。

しかし、ASC で同じ時間を過ごしていくうちに支部の壁が壊れていき、みんなが仲良くなっていくのを感じられました。韓国人との交流も皆きちんと出来ていて、積極的に行動できていたと思います。また、夜遅くまで起きていて最後まで騒いでいる人もとても多かったです。そのへんは若さが武器になっていていいなと思う点でした。閉会式の時には泣いている人も何人も見られました。それを見ることができただけでも今回の ASC は成功したと言っているのかなと思いました。

最後になりますが、こんな未熟で頼りない団長を支えてくれて皆さんありがとうございました。皆さんの協力があったからこそ大変な仕事やちょっとしたハプニングにも対応していくことができました。

今回の ASC が多くの 1, 2 年生の他のプログラムにも参加するきっかけになれば幸いです。

## \* EX の概要

韓国の学生とディスカッションや、ミッションゲーム、観光、お互いの文化紹介などを行う。

### ・ 開催の目的

様々な行事を通して韓国の学生と交流し、異文化理解を深める。

### ・ 協力団体、協力者

韓国 ISA、 オガチ Jeongjuhyun

- ・ 場所

韓国 カンジュ

- ・ 参加者リスト

役職	名前	支部、学年	大学
団長	児玉 和輝	九州・2	北九州市立大学
副団長	山崎 雄一	九州・2	北九州市立大学
	永田 良也	京都・1	同志社大学
国際渉外	横治 航太郎	神戸・4	関西学院大学
	吉武 実保	九州・2	北九州市立大学
財務	杉本 美咲	九州・2	北九州市立大学
	細川 知奈美	神戸・1	関西学院大学
	佐々木 唯衣	神戸・1	関西学院大学
チケット	長家 つきほ	九州・2	北九州市立大学
	増永 美紀	九州・2	北九州市立大学
	阿部 紘子	大阪・1	関西大学
勉強会	竹本 早希子	九州・1	北九州市立大学
パスポート	石井 志帆	神戸・1	関西学院大学
	加島 杏里	九州・1	北九州市立大学
	川内 結香子	九州・1	北九州市立大学
広報	梶原 拓也	京都・1	同志社大学
	衣田 裕紀	神戸・1	甲南大学
ML	坂平 美和	神戸・1	関西学院大学
文化紹介	中村 由佳	神戸・1	関西学院大学
	赤木 唯花	九州・1	北九州市立大学
	伊集院 怜美	九州・1	北九州市立大学
	石野 詩織	九州・1	北九州市立大学
	本間 周英	京都・1	同志社大学
Facebook	岩倉 由來	大阪・1	関西大学
報告書	鶴田 宏美	神戸・1	甲南大学
	鳥畑 礼未	九州・1	北九州市立大学
	吉村 奈七美	九州・1	北九州市立大学
	池上 聖子	九州・1	北九州市立大学

計 28 名

- ・ 日程及び構成

日にち	内容	滞在先
8月6日	移動、歓迎会	Gwangsan-Gu Youth Hostel
8月7日	ミッションゲーム、ディスカッション、お菓子パーティー	Bosung Youth Hostel
8月8日	グリーンティーファーム、ビーチ、スパ、マッコリパーティー	
8月9日	ディスカッション、潮干狩り、カルチャーナイト、関西文化紹介	
8月10日	ディスカッション、フライランプ、	Haenam Youth Hostel
8月11日	宝探し、文化パフォーマンス、九州文化紹介	
8月12日	ディスカッション、ASC オリンピック、BBQ、ローリングパーパー	
8月13日	閉会式	

## \* 事前勉強会報告

勉強会は8月5日に釜山のエンジェルホテルで行われました。関西メンバーと九州メンバーの初顔合わせでもありました。ホテルの部屋を使っただけの勉強会だったので、2つのグループに分かれておこないました。九州メンバーは、直前まで大学の試験があったため準備等が大変そうでしたが、関西メンバーも含めみんなしっかりと調べてきていました。自分で資料を作ってきた人もいました。わからないところや疑問があるところに関しては、みんな積極的に質問していました。翌日からのASCに向けて、良い勉強会になっていたと思います。

## \* 文化紹介感想

九州支部 北九州市立大学 1年  
文化紹介係 伊集院怜美、石野詩織

出発まで約一か月となった頃、ようやく始めた準備。お互いバイトをしているためなか

なか合わない日程、バイトを終えた12時頃にジョイフルに集まり話し合いを重ねた。3度ほど集まった頃、期末テストまで時間が少なくなり、直接会っての話し合いが出来なくなった。SNNを使って残りを詰めると決めたはいいが、互いの連携が取れず、進展のないまま期末テストを迎えた。期末テストが終わった翌日が出国日であったため、勉強時間を削ってMLを回さねばならず、自分もきつい上に、メンバーにも迷惑をかける結果となってしまった。そうして迎えたASC。いつ文化紹介が行われるかも定かでなく、一度衣装に着替えた後にもう一度着替え直しということもあった。とにかく文化紹介メンバーの仕事が徹底していなかったために、周りに迷惑をかけてしまう場面が多く反省している。

そうして迎えた当日。関西支部の文化紹介は日本の文化をクイズ形式で紹介し、九州支部はみんなでダンスを踊った。本当に盛り上がった。準備は大変だったが、とても楽しかったし、韓国メンバーとさらに仲良くなるきっかけになったと思うのでよかった。

## \* 日別活動報告

8月4日（土）

九州支部 北九州市立大学 1年  
鳥畑 礼未

3日の夜に下関港からフェリーに乗って釜山に出発しました。起床すると、フェリーで同室だった韓国人のおばさんがコーヒーをくれました。どうやら少し日本語が話せるようで、わたしたちにも親切にしてくれました。

釜山に到着して、まずは荷物を預けてから地下鉄で釜山大学の近くまで行きました。地下鉄に乗っていると、台車を押しながら乗ってきたおじさんが、突然車内で物品販売を大声で行い始めました。日本ではありえないことだったのでとても驚きました。

釜山大学周辺に到着してからは、ガイドブックに載っていたトーストハルメ2号店という有名な屋台で、学生に人気なホットサンドを食べました。2000Wという安さでしたが、食パンを3枚も使った豪華なホットサンドでとても美味しかったです。そのあとは服を買ったり、チャガルチ周辺に移動して化粧品を買ったりしました。

しかし、買い物に夢中になっていて、気付くと夜遅くになってしまっていました。急いで泊る予定だったチムジルバンに行こうとしましたが、詳しい地図を持っておらず、道に迷ってしまいました。あまり街灯がなく暗い道が続き、怖くなっていたところ、韓国人のおばさんが声をかけてくれました。韓国語が話せない私たちに根気強く付き合ってくれて、タクシーを呼び止めてくれたので無事チムジルバンにたどり着くことが出来

ました。言葉が通じない人と、身振り手振りなどだけでやりとりをするのは大変でしたが、親切な人に会えてよかったです。たくさん歩いてとても疲れたので、お風呂に入ってからはずぐに寝てしまいました。とても充実した **before** 初日になったと思います。

8月5日（日）

京都支部 同志社大学 1年  
本間 周英

この日は初めて日本人メンバーが全員そろい、釜山に集合しました。九州メンバーは初対面の人も多く、楽しみでもあり、若干の緊張もしていました。終わっているから言えることですが、みんなメチャメチャ良い人でした。合流後、夜に勉強会が行われ、各メンバーが事前に調べてきたことをグループごとに共有しました。

次に **before** について書きたいと思います。僕は京都支部のメンバーと8月1日からソウルで3泊4日の **before** を行いました。初めての韓国だったのですが、食事がかなり安価で驚きました。そのため毎日おいしいものを大量に食べました。あまりにも多く食べたため、**Before** を終える頃には、かなり日本食が恋しくなっていました。さらに、**before** 初日から飛ばしすぎたため、**ASC** を前にして体力と服のストックも底をつきそうでした。しかし、**ASC** が始まり韓国メンバーと絡んでいるうちに自然と疲れも忘れていました。

もし夢がかなうなら、あの8月5日に戻りもう一度初日から **ASC** を **enjoy** したいです。

九州支部 北九州市立大学 2年  
吉武 実保

福岡から釜山に到着！！韓国に着いたけど、街並みはあまり日本と変わらないと思った。そして、換金を済ませ、フェリー乗り場から勉強会があるエンジェルホテルまでタクシーでいく事にした。しかし、タクシーの運転手は日本語だけでなく英語が通じないため、目的地を言うのに一苦労だった。タクシーの中では、おじさんがたどたどしい日本語や英語で話しかけてくれて、楽しかった。

無事ホテルに着いて、チェックインまでに時間があつたので、みんなで早めの昼ご飯を食べに行くことにした。残念なことに、時間が早かったため、全然お店が空いてなかった。カフェが近くにあり空いていたので入ることにした。カフェは壁一面にお客さん

が書いた付箋が貼ってあって、おしゃれな店内だった。それから、おなかが空いたので、昼ご飯を食べることにした。入ったお店は冷麺とカルビとビビンバが食べられるお店でとてもおいしかった。しかし、私が頼んだ冷麺はとても辛く、涙がでるほどだった。冷麺にはムルレイミョンとビビンレイミョンがあって、スープの冷麺かコチュジャンの辛い冷麺があるそうだ。

それから、各々に別れて、自由に街を散策することになった。街並みをぶらぶらしていると、地下街があることに気づいたので、いって見た。地下街はたくさんのお店があって、とても楽しかった。かわいい服や靴、アクセサリ、化粧品などいっぱい揃っていたので、たくさん買い物をした。ネイルをしたかったので、ネイルショップがどこにあるかを街の人に聞いて回った。やっとみつけることができたが、予約をしないとネイルができない店が多かった。幸い、一軒だけ予約しなくてもできる店があったのでネイルをしてもらうことができた。

2時になったので、一回ホテルに帰ってチェックインをして、また夜ご飯を食べに外に出た。夜は味噌チゲと横の人が食べていておいしそうだったので、肉と魚介と春雨が入った大きなお皿に入った料理を食べた。韓国では料理が多いと感じたので、夜ご飯は分け合って食べることにした。

ホテルに帰って、勉強会の時間になったので、各部屋に移動した。勉強会は一人ずつ発表していく形式だったが、部屋でやったので硬い感じがなく楽しかった。ASC 前に色々なことが知れたので、勉強になった。2回生がいないので、みんなと仲良くなれるか不安だった。勉強会后、それぞれ文化紹介の練習や準備をすることになった。みんな夜遅くまで準備を頑張っていた。今日は勉強会だけだったので、明日からのASCに備えるためにゆっくり休んだ。

九州支部 北九州市立大学 1年  
竹本 早希子

あさフェリー到着！初めての韓国にテンションあがった!!そこからタクシーでエンジェルホテルに～。時間あるけんその辺のカフェはいって休憩～！窓にいっぱいいろんな人のメッセージあって楽しかった。ハングルで書いてあるのがいっぱいって時々日本語もあって韓国きたなーって思った。みんなでかいたやつ残ったらいいなー♪街のなか散歩～。お店もいっぱいだし道においてあるやつが可愛かったりして楽しすぎた！夜くらいまで自由行動で、バイキング見つけてうれしくてテンションあがってたらイモムシ葉っぱについて爆笑だった。みんなの食べたい気持ちを失せさせてしまった～。帰り道は迷子になってなかなか帰れなくてお店のお姉さんに聞いたらちゃんと帰れた！さとみのイングリッシュがすごかった！英語ペラペラしゃべりたいなー！迷子なった

けどみんな一緒だったしいろいろ歩けて楽しかった。

ホテルついてから他の支部の人たちと初対面！最初いっことも話せんかった(笑)あとで仲良くなれたけんよかった～(^^)勉強会だったけど係なのにあんまわからんくてせんぱいたちがいろいろ部屋のこととかしてくれてありがとおございました！後は文化紹介の練習！先輩のまねしておどった♪おわって部屋もどっておやすみなさい～。けど部屋のふとんがすごくておもしろかった。韓国の夜のテレビに超わらった～。1日目、初めてのことばかりで全部たのしかったー(^^)♪

8月6日(月)

神戸支部 関西学院大学 1年  
石井 志帆

日本メンバーは前日に軽く面会しましたが、まだぎこちない感じはありました。おそらくほとんどの人がまだ顔も名前も覚えてなかったはず。朝はそれぞれ自由行動を楽しみました。わたしは西面で **Shopping** しました。お昼頃、エンジェルホテルに韓国の方が迎えに来てくれました。バスに乗って約三時間弱でカンジュに到着しました。バス内では韓国アイドルグループのライブ映像が流れ、盛り上がっていました。一日目の宿舎に着いて日本人メンバーと韓国人メンバーそれぞれの自己紹介をして、**ASCT** シャツをもらったり、部屋割りを確認したりして各自部屋へ。夜ご飯はカレーライスでした。日本とは少し違う韓国風カレー。みんなどうだったのでしょうか。わたしは少し辛く感じましたがおいしかったです。夜は **Welcome party** で軽くゲームをしました。みんなでひとつの大きな円になり、鬼のひとりが異性に **Do you like a neighbor?** と尋ねるので **Yes** と答えれば尋ねられた人の両隣の2人がチェンジし、**No** と答えれば **What kind do you like?** と尋ねられるのでその答えに当てはまった人のみが入れ替わる、日本でいうフルーツバスケットのようなゲームでした。三回鬼になるとみんなの前で罰ゲームがありました。わたしは初対面のひとの前で、こういうことをするのは苦手だったので罰ゲームにならないように必死でした。しかし、このゲームのおかげで日本人同士はもちろん、日本人と韓国人の距離が縮まったような気がします。このゲームが終わった後は10人ほどのグループに分かれ **Drinking** でした。韓国人と九州支部はお酒が強いと聞いていたのと、私自身、初ビールということですごくどきどきしていました。韓国側がお菓子やお酒を用意してくれました。お互いの国のゲームを紹介したりして、負けた人がビールやソジュを飲むということだったのですが、その時のみんなのコールの元気さに心底びっくりしました。わたしお酒強くないけど大丈夫かな…と初めは思っていたわたしもすごく楽しめましたし、この夜でビールも飲めるようになっていました。このよう



な The 飲み会のようなノリが苦手な人でもすごく楽しめる企画でしたし、みんなで一緒に飲むことによって日本メンバーと韓国メンバーの距離がより一層縮まったと思います。日本メンバーの中でも、この人こういうキャラの人だったんだ。という驚きもありました。みんなが打ち解けるきっかけになったと思っています。わたしのまわりのお酒に強くない人たちも楽しかったと言っていたのでこの **Drinking** は本当に思い出に残っています。まさかこのときはこれから毎日 **Drinking** があるなんて思ってもみませんでした。12 時くらいにお開きがあり、各自部屋に戻ったのですが私の部屋はなぜかクーラーが壊れていて、暖房がついていました。この部屋では到底寝れない。ということで他の部屋で寝させてもらいました。こういう思わぬトラブルもまた思い出です。みんな長時間の移動で疲れていたのとお酒が入っていたのでこの日は早く就寝しました。日韓の交流が本格的に始まった初日、まだまだ名前を覚えきれていなかったり、話せていないメンバーもいたので不安もありましたが、それ以上にこれから始まる ASC の楽しみの方が大きかったです。

大阪支部 関西大学 1 年  
岩倉 由來

今日から、ASC スタート!!!!つ、ついに、はじまる。。。。。。そんな気持ちで朝を迎え、銀行に行きました。そう、今日は月曜日、銀行が開く日、円をウォンに替える日!!!!ほんでもって、参加費を払う日!!!持って行ったお金を全額ウォンに替えたら、とんでもない札束に……………I am richman 錯覚を起こした。

そんなこんなで飯!!!横治さんときぬーぴーと朝はチゲ鍋!!!!朝からチゲ鍋食べる感じがすごい好き、韓国スキスキ、僕は今まであまり食べてなかった魚介を食べたかったのでタコやあさりの入った海鮮チゲ鍋を注文!!!そしたら、韓国で店内で食べる時の必ず出てくる付け合せの登場!!!!!!Yeah!!!!!!キムチうまっ、キュウリうまっ、なんかよくわからんやつもうまっ!!!僕は辛い食べ物が特別スキというわけではありませんが、たまにごっついやつが潜んでましたけど、ほとんどの料理がとてもおいしかったです。…また、食べたい。

昼にはジャージャー麺を食べました。うまい!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!

そして、ほんとに、このときが…………バス移動!!!!韓国メンバーの何人がバス出迎えてくれました。なんと、たまたま韓国メンバーの隣の席に座ることになり、とても緊張しましたが、韓国の車の話やオリンピックの話など、いっぱい話してくれてうれしかったです。

宿舎につき、自己紹介…全然しゃべれなかった。

それから、ゲーム大会!!韓国のゲームは難しかったけど、とっておもしろかったです。

す。

はじめにやったのが、椅子取りゲームの韓国版で鬼というか、真ん中にひとりいて周りを囲むように座るところまで、一緒なのですが、その真ん中の人〇〇な人というのではなく、真ん中の人〇〇が周りに座っている人の1人を指名して、あなたの両隣の人〇〇は好きですか？と聞きます。聞かれた人はハイかイエで答え、ハイと答えたら、真ん中の人〇〇と両隣の人〇〇が指名された人の両隣を奪いあいます。イエと答えたら続けて、どんな人が好きですか？と聞かれます。そこで〇〇な人が好きと言い〇〇な人は席を移動するというゲームでイエスと言ってブロックしてじゃましたり、〇〇な人を聞き間違えて女の子と言われて、男の子が立ってしまったりとハプニングもあり楽しかったです。

タイギというやつが、特に難しかったです。タイギというのは、説明すると難しいのですが、決まった動きにあわせてタイギと言いだんだんタイギと言う回数が増えていくのですが、動きを覚えるのが大変だし、スピードは上がっていくし、タイギと言う回数はふえていくし、増えてもいくし、減ってもいくしで難しいゲームでした。

それからの飲み会!!!習ったゲームで負けたら飲むみたいな感じで、とても楽しかったです。はじめて飲んだ韓国のビールの味は日本より薄い味でした。焼酎はアルコールの味しませんでした。けど、徐々に慣れていき最後のほうはとてもおいしく感じました。

ASC とても楽しかったです!!!!!!韓国メンバーはいつもハイテンションで、優しく、おもしろくて、、、また、韓国に行きたいです。

九州支部 北九州市立大学 2年

杉本 美咲

1日目は、前日から泊まっていたプサンのエンジェルホテルを正午に出発して、グァンジュのユースホステルに向かいました！移動はバスで約4時間。すこし長めの移動で着くころにはもう夕方でした。着いてすぐ韓国人スタッフとの軽い自己紹介！英語がなんか照れ臭かったです。その後はホテルの食堂で夕食。カレーライス、キムチ、スープですごくおいしかったです。その後、みんな集まってフルーツバスケット的な遊びをして、飲み会～！韓国のお酒はビールとソジュといった焼酎的なお酒の2つでした。韓国のコールやゲームを教えてもらったり、日本のを教えたりと、とても盛り上がりました！！そして24時に解散。1日目は韓国側との初顔合わせだったので少し緊張していたけど、とっても良くしてもらったので、楽しい1日になりました！

8月7日（火）

神戸支部 甲南大学 1年

鶴田 宏美

はじめに、朝鮮大学校に行った。大学の敷地はとても広くて驚いた。大学に到着すると、まず支部ごとに自己紹介をし、その後予め決められていたミッショングループごとに分かれてグループ行動が始まった。与えられた課題は、街に出て、英語で書かれた看板等の写真をできるだけ多く撮ってくることであった。その課題をしながら、グループの韓国の学生たちが私たちを色々な所へ連れて行ってくれた。

昼食にはジャージャー麺を食べた。辛い物が多い韓国料理にしては珍しくそれは少し甘く、色は黒くて、日本でいう焼きそばのようなものだった。サイズはS、M、Lがあり、私はSを選んだが、それでも量が多くて食べきれなかった。韓国の学生たちと私たちを比べると、圧倒的に韓国の学生たちのほうが食べるのが早かった。なぜそれほど早く食べるのかと聞くと、時間が経つにつれて麺が膨張して余計に量が増えるから、と言っていたが、文化的な違いも影響しているのではないかと思った。急いで食べなくてもいいよ、と言ってくれたが、それでもやはり少し気を遣ってしまった。

その後、プリクラを撮りに行った。韓国のプリクラはどんなものかと思ったが、行ってみると日本の古い機種ばかりあったので驚いた。日本のものがそのまま使われているので、表示される文字も日本語で、韓国の学生は日本語がわからないため、代わりに操作してほしいと頼まれた。韓国にいながらも、していることは日本と変わらず、少し面白く感じた。

プリクラの後は、カラオケに行った。日本のカラオケとは少し雰囲気の違い、部屋の前方に9つのスクリーン、後方にも1つスクリーンがあった。後方にスクリーンがあることで、歌う人は他の人のほうを向きながら歌うことができる。その点は日本にもあってほしいと思った。歌本には意外にも日本の曲がたくさん入っていて、私たちは嵐の「Love So Sweet」や、モーニング娘の「LOVE マシーン」などを一緒に歌って盛り上がった。

その後、大学に戻ってから新しいユースホステルに移動。夕食をとり、それからディスカッションをした。テーマは自分の過去についてである。これまでの人生の幸福度の変化を表すグラフを書いて、それについて説明したり、最も楽しかった出来事について話したりなど、全て英語で行った。色々な人の話を聞けて、とても楽しいディスカッションだった。

ディスカッションの後は、スイーツパーティ！各自お菓子を持ち寄って、両国がお互いに紹介しあい、一緒に食べた。日本のお菓子は懐かしいものや、初めて見るもの、色々あって面白かった。韓国のお菓子はどれも「どんな味がするんだろう？」と思いながら食べてみると、日本のお菓子に少し類似していた。それから、スイカも食べた。ス

イカを半分に切ったものがグループに一つ配られて、それをスプーンでくり抜いて食べた。それだけでも斬新だったが、さらに、スイカが少なくなると、くり抜かれた部分に汁がたまってきた、そこにサイダーとフルーツ、コーンフレークを入れて食べ始めた。この食べ方は韓国では普通なのだろうか??よくわからないが、私は初めてそのような食べ方をし、とても美味しかったので、日本に帰ってからもやってみようかと思った。その後は、そのままのメンバーで Drinking がスタート! 先輩が何度もゲームで引っかかったり、その度に韓国メンバーの一人がダンスを踊ったりして、笑いが止まらない楽しいものだった。

九州支部 北九州市立大学 1年  
加島 杏理

7時起床し、8時から食堂で朝ごはんを食べて、今日泊まるホテルは違うホテルなので荷物を整理し9時にバスに乗り移動。

朝鮮大学に到着し、支部ごとに前にでて自己紹介をしました。

2回目ということもあり、英語での自己紹介もだいぶ慣れました。が、自分の発音の悪さと中学2年生レベルの英語にうんざりしました。

そして韓国の方たちが決めてくださった MISSION GROUP で集まり自己紹介をして大学を出て散策!

私たちの GROUP はカフェに入りたくさんお喋りしました。皆英語は上手くないけれど、皆一生懸命自分の言いたいことを伝えようとして、とても楽しかったです。お互いの国の言葉を教えあったり、お互いの国の学校についてなど1時間半ほどたくさん語りました。英語で会話することの楽しさを覚えました。そして英語が完璧でなくても通じること、伝えようとするれば伝わることなどが分かりました。たくさん笑いました。本当に楽しかったです。一気に MISSION GROUP が仲良くなりました。

それから、冷麺の店に移動しお昼ご飯を食べに行きました。冷麺とトッポギを食べました。韓国の方は真っ赤な冷麺を難なくおいしいと言って食べていたので一口もらうと口から火がでそうなほど辛かったです。ここでもたくさん語り笑い、本当に楽しいひと時を過ごしました。

14時朝鮮大学にもどって、かえってきていない GROUP を待つあいだ写真を撮ったりしました。そして15時から17時30分次のホテルまでバスで移動。

**Bosun** ユースホテルに着きました。まわりには田んぼしかなく貸切のユースホテルにわくわくしました。

洗濯機があったので皆で一気に洗濯し、風呂へ。風呂はお湯がでなくて冷水でした。凍え死にそうになりましたが、仲間と叫びながら入る風呂もまた最高に楽しかったです。

(笑)

そして食堂へ行き夜ご飯を食べました。ご飯は毎度のごとくほとんどが辛い物でした。辛い物が苦手ではない私は苦ではありませんでしたが、日本に比べると本当に辛かったです。けれど、とてもおいしい夜ご飯でした。

それから DISCUSSION GROUP で今までの人生についてディスカッションしました。ここでも新たに絡む韓国人ととても仲良くなり本当に楽しかったです。ディスカッションの間もたくさん笑い楽しくて愉快的ひと時でした。DISCUSSION GROUP もとても仲良くなりました。

そして sweets party. 日本人が日本独特のお菓子を持ってきていたのでそれを紹介しながら食べるというパーティでした。皆たくさん持ってきていて小さい頃食べていた懐かしいお菓子も目にしたりしてとてもテンションが上がりました。韓国の方も「これは一体何？」と興味深々で嬉しかったです。そして文化紹介の係りの人が何個かお菓子を介して、次は DISCUSSION GROUP ごとに机を固め、お菓子を分けて食べました。そして韓国側はスイカを用意してくださっていました。が、日本とスイカの食べ方はまったく違っていました。

半分に切ったスイカを皆でつついて、ある程度くぼみができたら、そこにサイダーをいれて、コンフレクをいれて大量の砂糖をいれて、まぜて食べました。とても甘かったです。これがスイカということをおすれるくらいぐちゃぐちゃで甘かったです。(笑) そしてお菓子もたくさん食べました。日本のお菓子の味を不思議そうに味わう韓国の方が本当におもしろく皆でたくさん食べました。(笑)

そしてお酒がでてきて恒例のゲームをしながら DISCUSSION GROUP で飲みました。爆笑の連続で本当に楽しく盛り上がりました。私の班が一番盛り上がったと自信があります。(笑) 周りの班もとても楽しそうでした。いつのまにかたくさんの方が潰れたり、寝に行ったりで人数が少なくなっていました。そして残っているのは九州支部がほとんどでいつも残っているメンバーと韓国の方(^ ^)そしてそのメンバーで明け方近くまで楽しく笑いの絶えない飲み会をしました。

韓国のコールやノリは九州支部を超す勢いで本当に楽しかったです。

本当に充実した濃い1日でした。今書きながらこれが2日目だとは思えないくらい皆仲良しになった日でした。

8月8日(水)

神戸支部 関西学院大学 1年  
佐々木 唯衣

この日は、いろいろなところに行きました。

まず、最初に Green Tea Farm という緑溢れる茶畑に行きました。そこでは、傾斜のきつい道や階段をみんなで登っていきともしんどかったです。でも、途中で野生のリスに出くわしたり頂上からの景色は最高に綺麗で頑張った甲斐があったなと思えました。また、ここで食べたグリーンティーのアイスがとても美味しかったです。その後、バスで昼食をとる店まで移動。この日のご飯は、ダッカルビというお肉でした。ダッカルビは日本のハンバーグに似ていて、ジューシーで美味しかったです。昼食後は、またバスで移動。そして、着いた場所は海でした。私は、海に入るつもりはなく足だけつけようと思っていました。しかし、着替えて戻ると ASC の韓国人の男メンバーが走ってきて、海に投げられたのが印象的です。でも、実際海に浸かってしまうと楽しくてずっと海の中にいました。海にいた時間は短かったけど、私の中では一番印象に残っています。

そして、みんなびしょびしょのまま温泉へ。久々の広いお風呂にととても癒されました。韓国では、水しか出ないシャワーが多かったのでお湯が出るのが嬉しかったなあ(笑) みんなさっぱりして、ホテルに戻ってきました。

夜からは、マッコリパーティー。マッコリが苦手な私は、違う部屋でトランプ。みんなでババ抜きをしたり、韓国のカードゲームで遊んだりとても楽しかったです。

この日は、私にとって一番思い出深い最高の一日でした。

九州支部 北九州市立大学 1年

川内 結香子

まず、7時に起床し朝食をとり、お茶畑に行った。着いたら抹茶のアイスクリームを買ってもらい食べた。すごく濃厚だけどさっぱりしていてとてもおいしかった。お茶畑の山の頂上まで登った。登るのはとてもきつく、大変だったがみんなとわいわい楽しく話しながら登った。頂上の景色はとてもきれいで達成感を味わえた。登り終えたところに小さな川が流れており、そこに足をつけて入ることが出来た。とても冷たく、山登りの疲れが癒された。お茶畑では、雄大な自然と触れ合え、きれいな景色が見られてとてもよかった。

昼食ではカルビを食べた。ハンバーグみたいでとても美味しかった。野菜と巻いてコチュジャンを付けて食べるとおいしかった。青唐辛子を食べてみたらすごく辛くてびっくりした。食べた後何分か舌がヒリヒリして痛かった。韓国の料理はお漬物みたいなものがいっぱい出てきて栄養が取れるなあと思った。どの料理も辛かったがおいしかった。

次に海に行った。韓国の人たちに投げられたりとても楽しかった。海は、若干汚く、すごく塩辛かった。ビーチは広く泳ぎに来ている人たちもたくさんいていいところだと

思った。

次は、温泉に行った。そこの温泉は、とても広く緑茶風呂やオレンジ風呂などのいろいろな種類があり、とてもリラックスできた。温泉の中には、あかすりができるところやパックができるところがありすごく充実していた。無料で冷たいウーロン茶なども飲むことが出来た。

夜ご飯では、初めてフルーツが出てきた。何の果物かはわからなかったが、さっぱりしていておいしかった。

夜は、マッコリパーティーをした。生マッコリというマッコリを飲ましてくれた。マッコリは、おいしくないというイメージがあったが、飲みやすくサイダーで割ったらおいしかった。ちぢみも出てきて、すこしピリッとしていておいしかった。韓国の本場のちぢみを食べることができ、よかった。この日の夜は、海の疲れなどもあり、酔っている人が多かった。

この日は、いろいろなところに連れて行ってもらい、韓国の自然にも多く触れられ、美味しい料理もいっぱい食べられて中身の濃い一日だった。とても楽しく過ごせ、貴重な体験のできる一日だった。また韓国の方とも交流する機会が多くあり、とても仲良くなれてよかった。

九州支部 北九州市立大学 1年  
吉村 奈七美

この日最初に行った所はグリーンティーガーデンです。着いてからまず抹茶アイスをいただきました。日本の味とはあまり変わらずとてもおいしかったです。グリーンティーガーデンは茶畑のようなのかなと予想していましたが、実際中に進んでみると茶畑みたいな穏やかな感じではなく、登山みたいな感じでした。頂上に着くころには汗びしょびしょでしたが、韓国にきてバス移動が多かったので良い運動になったと思います。そして女の子達が持っている荷物を登るときにはイチュンが持ってくれて、降りるときにはセンが持ってくれました。韓国人男性はみんなやさしいです。グリーンティーガーデンの次は昼食を食べにいきました。この日昼食はタッカルビ！初めて食べるタッカルビは、ハンバーグのような感じでとても美味しかったです。お昼ごはんを食べた後は、ビーチに行きました。着替えおわって、海の方に行くと既に何人かの女の子達が海の中に投げられていました。私は投げられたくないとっていて、拒否していましたがあつという間にサンダルを脱がされ、持ち上げられ、海の中に投げられていました。投げられてみると、とっても楽しくて海に入ってよかったなと本当に思いました。そしてこのおかげで、緊張感が解けASCを心から楽しめるようになりました。海に入った後は近くにあるスパに行きました。海から濡れたままの状態で行けるスパはとても便利だと思います。ユ

ースホステルのシャワーでは水しか浴びていなかったのも、スパは久しぶりの暖かいお風呂で、とても幸せになりました。そしてユースホステルに帰り、夕飯を食べてしばらくすると、マッコリ&チヂミパーティーが始まりました。海鮮チヂミは日本で食べるチヂミと全く違い、食感も良くてとても美味しかったです。マッコリは焼酎のようで少しきつかったです。この日の飲み会もとても楽しく終わったと思います。この日も朝から夜中までとても充実した1日を過ごせました。

8月9日（木）

九州支部 北九州市立大学 2年  
長家 つきは

今日は昼からディスカッショングループに分かれて、ディスカッションをした。

お題は、何が自分の生活を幸せにしているのか、反対に何が不幸せにしているのかだった。人それぞれ幸せや不幸せにする要素は違った。不幸せにする要因として、忙しくて時間に余裕がないや、大学に入って一人暮らしを始め家族と離れて暮らすことの寂しさなどの意見があった。反対に、幸せにする要因としては、友達や家族などがあげられた。みんなで自分の意見を言いあってお互いに質問もしあった。

その後、私のグループはディスカッションが早く終わったので、韓国の人たちに韓国の子供の遊びを教えてもらった。初めて遊んだ私たちにはとても難しかったが、どの韓国人も手慣れた手つきで簡単に遊んでいた。小さいころやっていた遊びをたくさん教えてもらえて楽しい時間だった。

他のグループのディスカッションが終わった後、ミッショングループに分かれて、ジェスチャーゲームをした。英語でお題が与えられ、それをジェスチャーで表現するのは難しかったけど、国は違っても同じジェスチャーを見て連想するものは一緒なんだなと感じた。

その後、20分ほどみんなで歩いて、干潟に行った。行った時間がちょうど満潮時で干潟というよりは海だった。残念だったけれど、みんなで長靴を履いて、ザルとスコップを持って潮干狩りをした。貝はなかなか見つけれなかったが、小さいカニやエビを見つけたのは楽しかった。みんなでドロドロになりながら遊んで、また20分かけて歩いて帰った。その道中に仲良しの韓国の子とたくさん話をした。冬休み、その子が兵役に行く前に九州に遊びに来てくれるそう。いっぱい九州の良いところを知ってもらいたい。今から12月がとても楽しみだ。

夜はカルチャーナイトがあった。水鉄砲を作ったり、センスにペイントしたりした。仲良くなった韓国の人に韓国語でメッセージを書いたり名前を書いたり



たりした。

韓国の子供の遊びを教えてもらったり、干潟に行ってみんなで泥まみれになって遊んだり、童心にかえった一日でとても充実していた。

九州支部 北九州市立大学 1年

池上 聖子

もらっていたスケジュールでは九時からディスカッションでしたが、前日の夜が遅かったので十三時半からやりました。テーマは「今、楽しさを増やしているものは何？」という感じだったと思います。私は前日に調子に乗ってしまったせいでこの日は一日中調子が悪かったのを覚えています。迷惑をかけたみなさん本当にすみませんでした。ありがとうございました。

ディスカッションのあとはジェスチャーゲームをしたと他のメンバーから聞きましたが私は部屋で寝ていました。

そのあと十六時からみんな歩いて沼まで行きました。二十分から三十分歩きました。とても長く感じましたが、いろんな韓国メンバーと話せてよかったです。沼の管理人の方が長靴とスコップを貸してくださったのでそれを使ってみんなで潮干狩りをしました。私は途中まで貝やカニやタニシをミッションメンバーのみんなと探していましたが、途中から気分が悪くなったので少しはなれた階段からみんなの様子を見ていました。とても楽しそうでした。そして、気遣って話しかけてくれたり、水をくれたり、カニをくれたり、トイレまでついてきてくださった先輩や皆さんありがとうございました。嬉しかったです。潮干狩りが終わると水道のあるところで足を洗いました。途中から水の掛け合いっこになって、全身かなり濡れました。帰りは列の最後に並んで帰りました。帰ってすぐにシャワータイムでした。

夜はカルチャーナイトで日本の扇子と韓国の水鉄砲を作りました。扇子にはASCメンバーのみんなにメッセージを書いてもらいました。

そのあとみんなを着信アリを見ました。私は耳をふさいで目も閉じていました。韓国メンバーはすごく笑っていました。いろんな人を後ろから驚かせていました。見ていて楽しかったです。

そしてそのあと毎日恒例の飲み会でした。とても盛り上がっていましたが、私は参加しない組の人たちと話したりしました。

自己管理をきちんとしようと思いついた一日でした。そして、具合が悪くてもこんなに楽しいんだな、と思いました。

8月10日（金）

神戸支部 甲南大学 1年  
衣田 裕紀

朝は昨日の **drinking** が長く続いてみんなも疲れていたこともあり、午前のプログラムはなくなり、午前の **discussion** は午後にまわされることになりました。

その後、いつものようにバイキング形式の昼食がありました。そして、最後の泊まる施設である **Haenam Youth Hotel** にバスで移動しました。移動時間はだいたい2時間半くらいバスで移動しました。

午後は **free time** の時間にまず、午前に中止になった **discussion** をしました。内容は折れ線グラフで自分の今までの人生を幸と不幸で表してグループの中で英語で発表するというものでした。

それが終わると、次はジェスチャゲームをしました。お題はどれも難しいのと、まず書かれている英語の意味が分からないのとで悪戦苦闘しました。みんなはじめに辞書でお題の意味を調べてから始まるといった感じでした。

そして、夕食があり、そのあとの **free time** は何をするかと思いきややっぱり **drinking** でした。

九州支部 北九州市立大学 2年  
児玉 和輝

この日は、朝から雨が少し降っており、**ASC** で初めての雨だった。そして、前日に遅くまで飲み会をしていたということもあり、大半が昼起きだった。昼の12時に目が覚めたときはかなり焦った。二日酔いの人も見られた。昼食を食べ、バスに乗り移動をした。

最後の宿泊先にはおよそ3時間ほどで到着した。今までで1番大きなユースホテルだった。

到着してから午前中のスケジュールだったディスカッションを行った。そこで、日本という人生ゲームみたいなゲームをした。

その後、夕食をとりフライランプをした。とてもきれいだった。何個か飛ばずに燃えているものもあり、大変そうだった。

帰ってからはいつもどおり飲み会をした。夜3時からオリンピックサッカーの3位決定戦があり、1つの部屋に集まりみんなで観戦した。半分近くが起きておりかなりの人数がいた。結果韓国が勝ったがみんなで盛り上がりとても楽しかった。

九州支部 北九州市立大学 2年

増永 美紀

8月10日は9時からそれぞれ朝食をとりはじめました。プログラム5日目ということもあり朝食をとる際韓国の参加者とも自然に話すことができ、いい雰囲気でした。また朝食もおいしいものばかりで日本では食べた事の無いような韓国料理も用意されており、みんなで美味しく頂きました。その後それぞれ身体の疲れをとるため、仮眠したり話したりして過ごしました。12時頃に昼食を頂き13時半には次に泊まるヘナムユースホステルへ向かう為準備を始めました。韓国のコミの方はみんな親切で部屋ごとにこまめに情報を通達してくれスムーズに移動する事ができました。韓国で移動の際使ったバスで驚いたのは日本と違い窓のカーテンがいつもされていたこと、また内装に紫や赤を使っており華やかだったということです。バスなどにおいても文化の違いを感じることができとてもおもしろかったです。前にいたユースホステルはこじんまりとしており小さい施設でしたが、ヘナムユースホステルは清潔感がある大型の施設でした。宿泊も私達の団体だけでなく小学生も宿泊しており韓国の方が多くいる状況下での宿泊は前のユースホステルとは違った新鮮味がありました。部屋に着いてからはすぐディスカッションをしました。プログラムで話しあう最後の内容だったのでディスカッションのメンバーも英語で発言する事に慣れ一番いいディスカッションをすることができたのではないかと思います。母国語も文化も違う中で育った人の考え方や将来に関するビジョンを知ることができたのは貴重な経験になりました。その後みんなで夕食をとり食堂へ移動しました。5日目ともなると韓国式の食べ方や辛いものにも慣れおいしくいただきました。夜は各部屋に別れ日本のゲームを教えたり韓国のゲームを教えてもらったりと楽しくゲームをしました。その際簡単な韓国語を教えてもらうこともでき楽しかったです。

8月11日（土）

大阪支部 関西大学 1年

阿部 紘子

前日、遅くまでの飲み会してからのオリンピックのサッカー観戦。日本 VS 韓国を見ていたので、ほとんどの人が、朝、時間通りに起きてきませんでした。いや、起きられませんでした。

起床時間はずれてしまったけど、午前中には、韓国の有名な画家の記念公園に行って、

トレジャーハントをしました。そこに来ていたおじさんが、私より先に見つけていて、教えてくれました。親切！その公園内には、その画家の絵を展示や、解説している建物がありました。中のどこにも「Don't take a picture!」の文字がなく、試しに撮ってみたら・・・怒られませんでした◎

お昼は移動して「カルビタン」という骨のついた牛肉のスープを食べました。辛くなくて美味しかったけど、個人的にはサムゲタンの方がおいしいなあ、と思いました。お昼ご飯を食べていたら、韓国人のコミの人がなんと！ユッケを頼んでくれました！！もう食べられない、と思って食べるとさらにおいしい、と感じました^^食後にアイスもくれました。韓国人、本当に優しい！

昼食後、アイスを食べながら少し歩いて移動して、いわゆる文化会館に行き、(たぶん)一般の人たちがやっている伝統文化発表会を見ました。韓国人も含めて、ASCメンバーは途中寝ていました。

そして最後に。ASCNight。九州支部の人と、韓国人メンバーが踊りました。とにかくダンスが上手くて、ノリがめっちゃよかった！！言葉では表現できません！！なので、フェイスブックを見てください！k-pop アイドルもうまいけど、そもそも韓国人自体がダンスのうまい民族では？と思ってしまうぐらいでした。

それが終わったあと、飲み会で、四時過ぎまで飲んでいるところが多かったけど、私は途中で抜けて、日本人メンバーと韓国人の男の子とガールズ(?)トークをしました。とってもたのしい一日でした。

神戸支部 関西学院大学 1年  
坂平 美和

珍島に行って宝探しをした。景品の名前が書かれた紙が木などのいたるところに隠されていて見つけるという感じだった。しかしあの景品はもらえたのか・・・よくわからない。

同じ場所で犬のパフォーマンスを見た。わっかを潜り抜けたり、犬が口に筆をくわえて絵を描いたり(暑かったのか・・・あまり書けてなかった)。気温が高く暑かったので犬もぐったりしている様子だった。

その後、韓国の伝統的な「絵」を見た。その絵はセリにかけられ売られていた。その場で何人かの人がオークションに参加していた。残念だったのは韓国語だったので何を言ってるのか分からなかったことである。

お昼ごはん「カルビタン」を食べた。辛いものが多いのが韓国の特徴だがこれは辛くなくて胃に優しい感じがした。必ず付け合せに緑の唐辛子があり、いつもじゃんけんて負けた人が食べるというゲーム(?)があった。最後に高級食材であるらしい「牛の

皮」と「ユッケ」を食べた。なかなか食べられないらしい。

その後徒歩で移動して韓国の伝統的な劇を見た。「アリラン」は国民全員が知っているのか大合唱が起こった。最後は抽選会があり、韓国人参加者が「韓国のり」を当てていた。

夜はASCナイト！韓国側がダンスを披露したり、日本側が浴衣を着て踊ったりAKBを踊ったりした。日本の曲である「ゴールデンボンバー」は全員で踊ったがクラブにいるような感じでびっくりするぐらい盛り上がった。そして記念撮影をひたすらして幕を閉じた。

九州支部 北九州市立大学 2年  
山崎 雄一

ASC6 日目、晴れ。韓国の環境、食事にも体が慣れてきた頃ですが、連日の飲み会がたたりに、皆疲れ切っています(笑)移動中のバスの中はほとんどの人が爆睡、九州支部のみんなも酒豪ばかりという前評判に比べられず、体調が悪そうな人もちらほら。僕も例外ではありませんでした(笑)しかし今日はトレジャーハントという、見るからに楽しそうな企画の日。公園にちりばめられた紙を見つけ出し、その紙に書かれた内容に応じて景品がもらえるという楽しい企画でした。僕のチームはウイナーをget!後日バーベキューでももらえるそうです^^その後残った時間で、日本でいう相撲のようなゲームをしました。僕のチームは見事優勝！商品は…特になく、おめでとうと言ってもらいました(笑)体を動かしおなかも減ったところで、お昼ごはん！カルビタンスープという韓国の料理を食べました。牛肉の入ったスープにご飯をいれて食べるというもの。とてもおいしかったです^^また日本では食べられなくなった生のレバーをご馳走に！韓国ではとても高いものらしく、日本人のみ食べさせてもらいました。貴重な体験！食後は、トラディショナルパフォーマンス、韓国の伝統的な歌と踊りの劇のようなものを鑑賞させてもらいました。日本人の一部の人も参加したり、とても楽しい時間を過ごしました。ホテルに帰り、食事を済ませた後、待ちに待った文化紹介！韓国、日本それぞれダンスパフォーマンスを披露しました。韓国女子メンバーによるセクシー(笑)なダンス、ジェマンのかっこいいソロダンス、韓国男子メンバーによるカンナムスタイルという韓国で最も流行っている曲のダンス。どれも楽しくかっこいいパフォーマンスでした。その次はいよいよ九州メンバーによるダンスパフォーマンス。AKBの「会いたかった」ゴールデンボンバーの「女々しくて」を踊りました。韓国についてからダンスの練習をするという無茶な計画でしたが、よこじさんを始めとする関西メンバーにも一緒に踊ってもらったり、韓国人の異常なノリの良さに助けられて、滑ることなく無事に盛り上がることができました。そのあとは、写真を撮りあい、落ち着いた頃から、今夜も飲み会。長い長い夜が続きました^^

8月12日（日）

京都支部 同志社大学 1年  
永田 良也

12日はバーベキューに寄せ書き、ラストドリンクなど盛り沢山。バーベキューは韓国人男性陣が手際よく動いてくれ、肉を焼く姿を見ると、いつもよりたくましく見えた。寄せ書きのときは、明日でお別れと思うとさびしい気持ちになった。今でも、寄せ書きを見るたびにあの頃を思い出す。いい思い出ばかりだ。会場を出たのが深夜2時から3時。明日13日は朝から出発のはず。だが、飲み会が始まり、みなで語り明かした。盛大な夜であった。

神戸支部 関西学院大学 1年  
中村 由佳

今日も相変わらずとても暑かったです。みんな疲れていたもので、活動はお昼ごろから始まりました。私たちが宿泊しているユースホステルの敷地内に大きなグラウンドがあるので、そこでスポーツ大会をしました。まず男性陣がサッカーをしていました。ただ立っているだけでも暑いのに、彼らは走り回っていたので、相当汗をかいていました。私は見ているだけでしたが、見ているだけでも楽しかったです。その後、チームに分かれて、長縄対決をしました。どのチームもASCのさまざまなプログラムを通してとても仲良くなっているようで、最低10回くらいは飛べていました。その後に行った競技がおもしろくて、韓国式バレーボールをしました。これは基本足を使ってボールを操るゲームでルールはバレーボールと同じでした。これは時間がかかりましたが、かなり盛り上がりました。その後、ペナルティーキック対決をし、スポーツ大会は終わりました。私がこのスポーツ大会を通して感じたことは、日本人と韓国人で言語や文化や習慣が違うけれども、スポーツに対する熱意や楽しみ方は同じなんだなと思ったことです。また、今日のスポーツ大会を通して、お互いさらに仲良くなれたと感じました。

夜はみんなで過ごす最後の夜だったので、バーベキューをしました。この日は有り余るほど食べるものがあったので、みんなとても満足したと思います。日本人メンバーも韓国で覚えたゲームや韓国語を積極的に使っており、また韓国人メンバーもたくさん日本語を覚えていて、本当に素晴らしい交流ができたと感じました。明日、離れ離れになるのはさみしいですが、きっとこの夏のASCの思い出はいつまでも私たちの記憶の中にとどめられ、将来よりよい日韓関係を築く第一歩となったに違いありません。

8月13日（月）

神戸支部 関西学院大学 4年  
横治 航太郎

8月13日、ASCはいよいよ最終日を迎えました。前日にいつものごとく Drinking Party をしていたのでクロージングセレモニーを行う朝鮮大学校までのバスの車内はみんな寝ていて静かなものでした。前日はみんなで過ごす最後の夜だったということもあって、いつも以上に大騒ぎしていたので疲れが出ていたのだと思います(笑)。

この日は昼食とクロージングセレモニーのみで、二日酔いのメンバーの多くにとってスケジュールとしては楽なものでしたが、言い換えればもう ASC が終わってしまうことを強く実感する日でもありました。

ASC のチーフのダルビッシュこと Joo Hyun からの挨拶から始まり、次に ASC 期間中に撮った写真をスライドショーで流しながらこの期間を振り返りました。写真を見て毎日毎日が本当に充実した楽しいものであったので、1日目、2日目のことでも「こんなこともあったなあ」と記憶を思い返すのにも少し時間がかかった、そんな気がします。

その後光州、ソウル、神戸、大阪、京都、九州各支部からの代表から一言メッセージを言う時間があり、僕もその機会があったのですが、何人か泣いているメンバーが目に入りました。今までずっと一緒に過ごしてきたけど、やっぱり今日が最終日で、ASC が終わるんだなあとその姿を見て改めて感じました。

最後に、全員で写真撮影を行いました。撮影の準備の間にいろいろと他のメンバーとちょっと一言交わしたのですが、その時に涙が堪え切れなくなりました。本当に今回の ASC 楽しく感じられました。毎日が楽しくて、ずっとこんな日が続けばいいなとも思いました。でもそれが今日で終わるのだなと思うと、すごく寂しさを感じられずにはいられませんでした。

セレモニー後も多くのメンバーが写真を撮り合ったり、言葉を交わしたりして、別れを惜しんでいました。ついこの間まで全く知らない者同士、それも国籍や言葉も違う者同士が、今こうやって別れを惜しむ姿は本当に良いなと感じますし、またすごいなとも思います。

今回の ASC の目的が日韓の学生同士の交流に重点が置かれているとすれば、今回の ASC は大成功だといえるのではないかと思います。多くのメンバーがお互いを知り合っ  
て、お互いが別れを惜しんで、お互いが再会を約束し合っ  
たと思います。そういったことを今回できたわけ  
です。国際交流が充分できたとも言えるし、本当に素晴らしいものであったのではないかと思います。

この日8月13日は、次の機会につなげるきっかけとなった、そんな日であったかと思  
います。

ASC 最後の日でした。まずバスで移動して昼ごはんを食べました。料理名は分かんないけど、なんか辛い感じの鍋で、チゲ鍋かな??それに麺入れた感じのでした。わたしは辛いのは苦手だけど、これは食べれるくらいの辛さでおいしかったです。二日酔いじゃなければもっと食べれたのにと後悔しています。次にカフェに行ってコーヒーを飲みました。韓国のカフェの飲み物はほんとうにおいしくて、そのカフェのコーヒーもかなりおいしかったです。コーヒーは苦手だけど、シロップをたくさん入れたらちょうどいい甘さになっておいしかったです。次に大学に向かい、お別れ会をしました。ASC 期間中の写真が流れたときは、ほんとなつつかしい感じがして、少しだけさびしくなりました。全体写真をとって、そのあとにいろいろな人と写真を取りまくりながらお別れをしました。なんかほんとにさびしくて泣きそうになりました。ASC は長かったけどとても短く感じて、みんなとの別れは悲しかったです。日本に帰っても、facebook で、みんなと連絡をとりたいです。お別れをしたあとは、バスでソウルに向かいました。バスから降りたあとはタクシーでホテルに向かいました。タクシーの中からみたソウルの夜景は、めっちゃめっちゃきれいで感動しました。ソウルは東京並みの都会でかなりわくわくしました。無事ホテルに到着・・・と思ったら、そのホテルにチェックインしようと思って、英語で話してみたけど全然伝わらず、どうしようと思っていたら、ホテルの人が日本語を話せる夫婦を呼んでくださり、その人に日本語で話しチェックインしようと思ったら、予約したのはこのホテルではないと言われました。確認してみると、確かに予約したホテルとは違って、ヤバイとおもい予約したホテルに電話をしてもらったところ、予約されていないと言われました。間違ってきてしまったホテルも、部屋が空いていなくて、どうしようと思っていたら、そのホテルの人が近くにチムジルバンという温泉やサウナがある泊まれる施設があると教えてくれ、案内してもらいました。そのときキャリーはそのホテルで預かってくれるとってくれたので、お言葉に甘えて預かってもらうことにしました。ほんとうに優しいホテルの人と夫婦に出会えて助かりました。チムジルバンは思ったよりも居心地がほんとうによく、リラックスできました。温泉も広くて気持ちよかったです。

この一日は、韓国の人のおよしさに触れることのできた日でした。またソウルに来る機会があったら、日本のお土産をもってお礼を言いに行きたいと思います。



8月14日（火）

九州支部 北九州市立大学 1年  
伊集院 怜美

03:45に起きる予定が04:20に起床、急いで準備し04:45頃にチェックアウトをした。ホテルから西面(ソミョン)駅に向かい、そこから地下鉄で老圃(Nopo)駅へ(老圃洞/ノポドン)へ。地下鉄の料金はたった1,400ウォンだった。駅の番号で119~134まで、およそ30分もの距離をこの値段で行けるのはとても安く、韓国の物価の安さを改めて実感した。そして老圃の釜山総合バスセンターへ。22,000ウォンの7:00発がなくて、本数の多い6:30発のに乗ったところ、料金は32,800ウォンだった。

西面では駅員の男性がエレベーターの入り口に連れて行き直してくれ、老圃では中年の男性がエレベーターがある場所を教えてくれた。そのエレベーターでは年配の男性がわたしたちを手招きし、わたしたちがたどり着くのを待ち一緒に乗せてくれた。また、バスセンターで乗るバスが分からなくて困っていたところ、英語が分かる男性が場所を教えてくれた。

朝から人の温かさにたくさん触れられ、自分たちは周りに支えられているのだということ強く実感した。

バスに荷物を乗せるとき、自分の力でバスに積み込んだ。そのとき、今までわたしたちの代わりにキャリーケース積み、運んでくれていたコリアンメンの優しさに改めて気付かされ、そして、わたしたちの旅を助けてくれた人々の優しさを思い、韓国には親切な人がたくさんいるのだと認識を改めることが出来た。

バスターミナルに着いてすぐ、今度は年配の女性に助けられた。階段しか見当たらず、キャリーケースを持って階段を降りるのかと途方にくれていたわたしたちに、エスカレーターを場所を教えてくれたのだ。そして明洞行きの地下鉄の切符を購入。1,650ウォンだった。これには500ウォンの保証金が含まれており、最後には返金される仕組みとなっている。つまり、その額を引くと、釜山よりソウルの方が地下鉄に安く乗れるということだ。都会の方が安いというのはちょっとした疑問である。

切符を購入し、ここでこれまでホテルから行動をともにした九州支部の友人ふたりと別れ、もうひとりの友人とともに明洞へ向かった。明洞に着いてコインロッカーを探したが空いておらず、仕方なくキャリーケースを持ったまま買い物。コスメショップに寄ったところ、その店員さんが優しい人で、ソウルのチムジルバンを紹介してくれた。そのチムジルバンは荷物預かってくれるらしい。その日はそこに宿泊することに決めた。

一度荷物を置くためにチムジルバンへ移動。ソウル駅に着いて出たら、そこはまさかのオフィスビルだった。人気のなさに違和感を抱きつつも、ショッピングビルだと信じ

エレベーターに乗った。そこで乗り合わせた男性はスーツに身を包み、明らかにショッピングビルではないと分かり、男性に尋ねたところ、オフィスビルということ告げられた。1階へ戻り、カウンターに助けを求めた。遅れてやってきた別の男性に要件を尋ねられ、チムジルバンを探している旨を伝えると、どうやら知っている素振りを見せた。コスメショップの店員さんがくれたメモの連絡先に電話をかけ、そのメモの間違いを訂正した上で、行き方を教えてくれた。その男性はビルを出た少し先まで案内してくれ、ビルを出てすぐのところの階段ではキャリーケースを持ってくれた。そして進む途中、横断歩道が分からず困っていると、今度は2人組の中年の女性が **May I help you?** と話しかけてくれた。**Yes** と返し説明をすると、LINE 使って訳し、教えてくれた。彼女らが苦闘している途中、もうひとりの女性も加わり一緒に教えてくれた。

その後今度はロッテマートで迷い、ネームを付けた会社員らしき中年男性にチムジルバンの場所を聞いたところ、看板が見えるところまで案内してくれた。そこから看板まで行くと、今度は年配の男性が話しかけてくれ、チムジルバンまで一緒に行ってくれた。

ようやく着いて 13,000 ウォンを支払い荷物を預け、明洞へ戻った。今度は荷物なしで思う存分買い物が出来た。夕方からは屋台が出始め、賑わいが衰えることはなかった、どころか、徐々に盛り上がりを見せた。夕飯に、名物の明洞餃子と麺を食した。焼売のような形をした大きな餃子が 10 個で 8,000 ウォン。結構なボリュームで、またまた物価の安さを実感。お腹を満たし、満足して外に出ると、まさかの雨。しかし、明洞餃子のお店で偶然出会った日本人親子曰く、東大門は夜の街ということ。そこで、遅い時間、さらに悪天候で辺りは暗くなっていたが、東大門へ向かうことを決めた。

東大門に着き駅を出ると土砂降りの雨だった。明洞でも傘を買わなかったのだから、と半ば意地で傘は買わず、雨でずぶ濡れになりながら進んだ。屋台は閉まり、灯りが少なく道は薄暗かった。本当に買い物をする場所があるのか、不安を抱えながら足速に歩いて行くと、ある夫婦に出会った。不安を払拭するべくその夫婦に尋ねると、立ちつくすわたしたちをひとりずつ傘に入れ、ショッピングセンターの入り口まで送ってくれた。自分が濡れるのに構わず他人を傘に入れ、目的地の入り口まで送り届けてくれるその優しさに、本当に感動した。

そして買い物をした。そこで気付いたのは売る側の態度の悪さ。商品見ているとすぐに寄ってきて、買わないと分かると態度を豹変させる。商品を見ている間もしょっちゅうため息をつき、商品を買ってもお礼すら言わないところもあった。工作中にも関わらず、店員は携帯電話をいじり、商品の側で普通に食事もとっていた。東大門は明洞に比べ態度が悪く、あまりいい気持ちのしないままチムジルバンに戻ることに。来たときよりも激しさを増している雨に行く手を阻まれ、雨宿りを余儀なくされた。少しおさまったのを見計らい地下鉄の駅に移動したものの、まさかの終電が 12:00。そのとき既に 01:00 を過ぎており、もう少し早く帰っていればと深く後悔しながら、結局タクシーで帰ることに。ところがタクシーを拾おうとし出した頃、他の人たちも同じことを考えた

のか、辺りはタクシー拾いラッシュに。

傘がないわたしたちはタクシーを拾うのにも一苦勞、周りが避けている大きなタクシー。乗れるのに乗るしかないと考え乗った。普通より高いとは分かっていたものの、仕方がないため取り敢えず利用することに。しかし後に後悔することに。どんどん上がるメーターに不安を募らせ、宿泊先のチムジルバン着いたときには 112,000 ウォンと表示されていた。交渉の末、ひとり 2,000 円と 20,000 ウォンずつを支払った。最初は 2,000 円ずつとふたりで 30,000 ウォンでいいと言ったのに途中で撤回し、困るわたしたちを前にお金を見てにやにやすする運転手に、騙されたと理解した。まだ安くしてもらえてよかったと思うことに。メーターを見ながらずっと泣きそうだったし、止まってからは値段の高さに号泣した。たくさんの人に助けられ、人の温かさを知ったものの、最悪な 1 日となってしまった。

チムジルバンに着き、お風呂に入るも、着くのが遅すぎてゆっくりお湯にもつかれず、疲れも取れないまま 3:00 過ぎくらいに睡眠室で就寝。

8 月 15 日 (水)

九州支部 北九州市立大学 1 年

石野 詩織

昼 1 時に起床。前日の夜中 2 時まで東大門で買い物をし寝たのも遅かったり昨晩はかなりついてないこともたくさん起こっていたりとで遅くまで寝ていました。チムジルバンに泊まりましたがかなり設備もよくてホテルよりかなり安いわりにきちんと寝られる所もあったりするので安く済ませたいならばチムジルバンはかなりいいと思いました。チムジルバンでは盗難も多いと聞いていたのですがキャリーケースなどもカウンターに預けることができたので本当によかったです！

朝の 10 時頃には警察の人に起こされて韓国の女性の方の写真を見せられ[この人を知らないか??探している]と言われ少しだけですが怖かったです。

すぐに準備を終えて梨大へ行きました！梨大へ行く途中の地下鉄ではおばあさんに英語で話しかけられ会話をしました。そのおばあさんは英語と日本語を勉強しているようで英語もかなり流暢で驚きました。私も年をとっても常に勉強ができるような人になりたいなとそこで改めて思いました！

大学の近辺ということでかなり服やかばん小物など安いものがたくさんありました。そこで香水や靴や服かばんなどをたくさん買いました。お盆休みということもあってなにかかなりの人で梨大は賑わっていました。

しかし一本路地裏みたいなどころがありそこはなんか少し臭いし危なそうな雰囲気漂っているような所で危なかったです。梨大でもやはり感じたのはお店の店員さん

はかなり物を買うように勧めてきて私たちが買うか買わないかで迷って買わないとやめたときの反応がころっと変わることです。溜め息までつく店員さんがいたのにはびっくりでした。もう韓国の研修も終わりに近付いていたのでその店員さん達の態度には慣れてはきていましたが…。後、店員さんが携帯を触っていたり食べ物を食べていたりするのにも驚きました。[いらっしゃいませ] と言うのは日本では当たり前なことだけど韓国では当たり前というわけではないのだなと思いました！

その後はソウル駅に戻り駅の近くのモールに行きました。かなり大きい所で日本人の方もかなりたくさんいました。みなさんカートにたくさんのお菓子を入れていてすごい量でした、ここは日本なのではないかと思うくらい日本語が周りで飛び交っていて少し安心した気分になりました。このモールではお土産をたくさん買いました！日本で売っている韓国産のチョコのブラウニーも韓国ではやっぱりかなり安く売っていてたくさんを買いました。

私がお土産を渡すのにこのお菓子は個包装になっているのかというのが知りたくてお店の店員さんにそのお菓子を見てもらうために声をかけたとき、かなり機嫌が悪くなり嫌そうな顔できてくださり態度もいらいらした感じでこっちまで少し気分が嫌になりました。日本の店員さんなら絶対にこんな態度はとらないのにとと思いました。

でもかなり安く美味しそうなものがたくさん買えたので相当満足して帰りました。でも買いすぎでチムジルバンまでの道のりを手がちぎれそうになりながら帰ったのはいい思い出です。かえって温泉につかりしっかりと疲れをとることができました。この日も遅くまで寝てしまったことを除いてかなり楽しい一日となりました

## \* フリーエッセイ

神戸支部 関西学院大学 4年  
横治 航太郎

ASCを終えて約1カ月が経った9月現在、今ASCを振り返ると非常に楽しかったプログラムだったなと思います。

一言で表すと「毎日を思いっきり楽しんだ」、そんな日々であったかと思います。各日文化体験や、ディスカッション、スポーツなどの活動を満喫し、そして毎晩のDrinking Party、日本にいる普段の生活からは大きくかけ離れた、毎日が充実していた時間でありました。正直よく乗り越えたなあと思うのですが、それほど楽しい時間であり、4年生の私もみんなに混じって満喫することができていました。

その「4回生」ですが、今回のASCメンバーでは4回生が自分一人でした。団長ではなかったのですが、必然的に出発前から帰国まで、実は不安やプレッシャーを感じていました。1、2回生が多く、全員がASCを満喫し、全員が無事に帰国できるかどうか、いつも頭の中を駆け巡っていました。

結果的に、大きなトラブルがなく無事に帰国することができたことに対してはものすごく満足しています。ただ小さな旅行上でのトラブルがなかったわけではないので、もっとみんなにアドバイスや相談にのることができればよかったかなと思っています。

このことを通じて、ASCに限らず海外プログラムにおいて、プログラムや旅の経験がある方にどんどんメンバーをサポートしてほしいなと感じました。ASCは1,2回生中心の「若い」プログラムだという認識が強い印象があるかと思いますが、是非上回生にも参加して行ってほしいと思います。ASCに関して言えば、学年なんて関係ないと思います。ASCにもっと多く、もっと幅広い学年から参加して行ってほしいと思います。

ASCを楽しむことができた、と先程から繰り返して述べていますが、その要因にはこれまで会ってきた韓国人メンバーとの再会が大きく占めていると考えます。

私自身、これまでASC(14<sup>th</sup>)、JKSC(44<sup>th</sup> and 46<sup>th</sup>)、KJSC(47<sup>th</sup>)、と韓国プログラムに参加してきました。そこでは多くの韓国人メンバーと出会い、今回のような印象的な思い出をたくさんつくることができました。

今回のASCでも参加者の中にもこれまで会ってきたメンバーがおり、再会を喜び合うことができました。また、プログラム途中からも何名か顔を出しに来てくれたメンバーもおり、非常に嬉しく感じました。これまでのプログラム参加が今現在にこのような形で繋がっているのだと強く感じることができました。

一度プログラムに参加すると分かると思うのですが、ASCに参加したら、次はJKSCあるいはKJSCに参加したいという気持ちが生まれてきます。私の4年間もそのサイクルに乗った4年間であったといっても過言ではないと思います。一度何らかのプログラムに参加してみてください。自分自身がそうであったように、韓国プログラムのサイクルに身を預けるとなかなか抜け出せないくらい非常に有意義なものになるはずです。

フリーエッセイということで、脈略のない文章がこれまで続きましたが、最後に、「国際交流」について述べたいと思います。「国際交流」は改めてシンプルなことなのだと感じました。同じ時間を過ごし、たくさん喋って、笑って、騒いで、ただ良き友人同士になればそれでいいのかなと思いました。「国際交流」と書くと難しそう、大そうなことをしているのだなという印象を抱くかもしれませんが、もっとシンプルに純粋に、現地で会った人たちとの交流を楽しむことができれば「国際交流をした」ことになると思います。

国際交流はものすごく簡単なことです。しかし、その機会を得ることができる背景には一生懸命プログラムを準備してくれた韓国人メンバーの努力や、日本人メンバーをまとめてくれた団長や各役職のみんなの働き、そして今日まで続くISA-JとISA-Kとの繋

がりの積み重なった歴史が大きく存在しています。

国際交流を楽しむことができる機会を数多く得ることができていることに対し、ISAに所属することは恵まれた環境下にいることを意味しているのだなと実感しました。

今回のASCに関わった全ての人へ、素晴らしい時間を本当にありがとうございました。

神戸支部 関西学院大学 1年

石井 志帆

ISAに入部して、初めてのプログラム参加であるASC。ある先輩に価値観変わるよ、行って損はないよと勧めていただいたのがきっかけでした。以前から、先輩方にたくさん話を聞いて日に日に楽しみになっていきました。出発当日、両親に「出会いは大切に下さい。」と見送られ初めての海外、韓国へ。日本とは違う町並み、食べ物、におい、言葉。最初は戸惑いもありましたが、思っていたより早く慣れることができた気がします。今になって思うASCに参加しての収穫は言い切れないほどたくさんあって、やはり一番は「言葉」だと思っています。日本にいと特に意識しなくても、聞こえてくる日本語が理解できてしまいます。でも、英語で会話しディスカッションをしていると、話している内容を理解しようと、一音一句逃さぬように話し手に全神経を集中している自分がいました。英語が未熟なわたしには、何か作業したまま英語を聞きとることはできませんでした。しかし、この感覚は母国語を話していないからで、簡単に理解できてしまう日本語を話すときには感じることはできなかった感覚だと思いました。そして、相手の話している内容に真剣に耳を傾ける。というごく当たり前の姿勢を私たちは忘れていたのではないかと気づきました。相手の主張に耳を傾ける、改めて大切なことを教えてくれました。お互いの相手を理解しようとする気持ちが、言葉の垣根を越えたASCメンバーの絆を築くことができたのではないかと私は思っています。

日本でニュースを見ていると、韓国と日本の間の領土問題でお互いの国民が敵視しているような印象を個人的に持っていました。お互いがお互いのことをよく思っていないと。日本に帰国して、領土問題に少し動きがあったと聞かされました。多くの方がわたしに「韓国は大丈夫だったか。」などと問いました。でも、その問いかけがわたしには疑問で、少し不愉快でした。確かに、政治問題において日本のことをよく思っていない人もいるかもしれない。だけど韓国にいる間、わたしが出会った人々はとても親切にしてくれて、日本という国に興味を持っていてくれる人ばかりでした。正直、日本でニュースをみていると日本の悪口をいっている人がよく取り上げられていますが、決してそれが多数ではないということ。それが、自分の目で見た真実でした。日本からみる外国は偏見や先入観ばかりで分かったような気分になっているだけ。わたしたちがいかにも

ディアに洗脳されているのかが身に染みてわかりました。ASCに参加して、わたしはもっともっと広い世界を見たいと思いました。多くの国を自分の目でみたい。そしてそれを多くの人に伝えたい。日本に帰ってきた今、わたしがすべきことは自分が見た韓国という国を多くの人に伝えることではないだろうか。最後に、17thASCメンバーへ。わたしはみんなと出会えてとても幸せでした。初めは長いと思っていた二週間の韓国。今は短かったと思っています。もっとみんなといたかった。みんなと過ごした日々はわたしの宝物で財産です。素敵な時間を経験をありがとうございました。

神戸支部 関西学院大学 1年  
坂平 美和

バスで釜山から光州に向かって約3時間半、ようやく目的地のユースホテルに着きバスを降りた。大部屋に通されて初めて韓国人参加者と対面した。最初の印象は「怖い」。まず韓国人側の女子が5人しかおらずあとは全員男子だったことが一番大きかった。女子5人の事実を知った時はこれから8日間やっていけるのかととても不安に思ったのが印象的である。

しかしその不安感は知らぬ間に消えていた。韓国人参加者の男子はとにかく気さくで話しやすいしノリもいい、テンションも高かった。そんなこんなで本当に1,2日でみんなと打ち解けることが出来たと思う。韓国人参加者だけでなく日本人参加者の他支部の人とも打ち解けることができた。

プログラム中に思った韓国学生の印象として「気遣いがすごい」ということと「頭がいい」ということが一番大きかった。韓国人参加者と日本人参加者の何人かと一緒にトランプをしたことがあったのだがとにかく強い。韓国のトランプのゲームは反射神経と計算力をものすごく使うのだが慣れているのかとても強く太刀打ちできなかつた。韓国のゲームは手遊びなども含めて沢山教えてもらい実際にしたが、どれも頭を使うものが多く難しかった。また気遣いがすごいというのは特に男性に見られたことなのだが、荷物をもってくれたり重いスーツケースを運んでくれたりとお世話になりっぱなしだった。

私はこのASCの目標として、下手な英語でもとにかく話すこと、韓国人学生みんなのたくさん関わるということを考えていた。結果としてほぼ全員の韓国人参加者と仲良くなれたと(私は勝手に)思っている。あまり男子と話すことが得意ではなかつたのだが、結果的には色々な話ができたり自分でも驚くほどたくさん関わる事が出来た。英語が話せないことは出発前の不安材料の大部分を占めていたけど、プログラム中コミュニケーションで困ったことはほとんど無かつた。両国とも英語を母国語としない国であるというのも大きいと思うが、文法などにとらわれずとにかく話してみると大体通じるというのが私のこのASCで学んだことである。

神戸支部 関西学院大学 1年

佐々木 唯衣

韓国に行って驚いたことがあります。それは、韓国人の接客の悪さです。私は、プログラムが始まる前にビフォーアールでソウルに行きました。たくさんの買い物をするために色々なお店を回りましたが、ほとんどのお店の店員さんが座りながら喋っていたり、アイスクリームやお菓子を食べながら接客していました。これは、日本ではありえないことなのでとても驚きました。日本だとかこういった接客はすぐにクレームに結びつくことなのに、韓国人の人にとって、このような接客は当たり前のように見えました。しかし、積極的に商品を勧めにきて分かりやすく説明をしてくれたので、そういったところではこの商品を買おうかなという気にさせられました。

神戸支部 関西学院大学 1年

中村 由佳

私は今年の春に ISA に入部して、この ASC には絶対に行きたいと思っていました。なので、今回 ASC に参加できて本当にうれしかったです。私が韓国に行ったのは今回で 2 回目でした。以前は高校生の時に文化交流で釜山に 1 週間ほど滞在しました。その時から韓国に興味を持ち始め、また韓国のドラマや KPOP がとても好きだったので、日に日に韓国が好きになっていました。大学に入ってから韓国語の授業も取り始め、韓国語も少しだけ話せるようになりました。今回はそれまで韓国のことをある程度勉強して行ったので、以前より韓国の言語や文化や習慣を早く吸収できることができたと思います。韓国人のメンバーはほとんどが男の子でしたが、日本人メンバーを含めみんなと仲良くなることができ、毎日本当に幸せでした。日本と韓国は必ずしも常に友好関係を保っているわけではありませんが、ASC メンバーの日本人と韓国人は常に仲良しであるし、これからもずっと仲良しです。私たちの今回の ASC での活動は日本と韓国という視点から見たら、ほんの小さいものに過ぎないかもしれませんが、しかし、今年の夏に日本人と韓国人がお互いの文化を学び合い、尊重し合ったという経験はメンバーそれぞれにとってはとても大きなものであり、かけがえのない思い出として心に残ると思います。そしてそれはそれぞれにとっての真の日韓友好の第一歩です。私は今回の経験をこれだけでは終わらせることなく、これからも一生懸命韓国語を勉強して、さらに韓国のことについて学び、もう一度韓国を訪れたいです。



神戸支部 関西学院大学 1年

細川 知奈美

私が今回のASC参加を通して一番感じたことは韓国人のあたたかさです。私が大きなスーツケースを持って階段の上り下りをしていると、たくさんの韓国人の方がスーツケースを運んでくれました。日本人は何か人助けをするときに躊躇する傾向がありますが、韓国人はみんなためらうことなく自然に助けてくれました。また地下鉄に乗った時に感じたのは、韓国人は優先座席に座らないということです。日本は優先座席が空いていたら座り、体の不自由な方などが来たら席をゆずるとというのが基本的な習慣です。それに対して韓国人は基本的に席が空いていても優先座席には座りません。優先座席に座っているのは老人の方だけでした。またすぐに席をゆずってくれます。この人助けをするときに躊躇しない姿勢は日本人が見習わなければならない姿勢だと思いました。そして韓国の学生はみんな英語を喋ることができるというのにも驚きました。日本では独学で勉強したり、留学に行き英語が上手く話せる場合が多いのに対して、韓国は学校教育がしっかりとしているため学校に通いしっかりと勉強をしておけば何か特別なことをしなくても英語を話すことができると聞きました。私が今回のASCを通して残念だったことはやはり自分の英語力のなさでした。自分が伝えたいことを上手に英語で表現することができない上に、相手の話している内容を理解できないことが多くありました。これは今後の自分の課題です。今までも英語を話せるようになりたいとは思っていましたが、このASCに参加したことでよりいっそうこの気持ちが強くなりました。4年間の大学生活を無駄にしないように、しっかりと勉強もして充実した大学生活にしよう。今回の経験を通して強く思いました。

神戸支部 甲南大学 1年

衣田 裕紀

まず初めに、韓国側の学生みんな英語ができるのだなと驚かされました。韓国人はみんな英語しゃべれるのかと思いましたが、飲食店の中年ぐらいの人はしゃべれてなかったのが全員というわけではなかったです。

drinking というものがありました。韓国のノリはこんな感じなのかとすぐに理解しました。いくつか分かれて輪になってゲームして負けたら罰ゲームで飲むのをビール、焼酎がなくなるまで続けるといった感じです。一気飲みは韓国語で「ワンシャット(One Shot)」。「イッキ、イッキ」という掛け声は、「ワンシャット、ワンシャット」という感じでした。また、グラスを持った2人が腕と腕を回し合い親密に一気飲みする「ラブシャット

(Love Shot)」というものもありました。

Before のときから気づいていたことなのですが、韓国ではウェリントン型の大きいメガネが流行っているみたいです。おそらく韓国の芸能人たちが掛けだしたのがはじまりだと思います。それと、男性の髪型に多いのがダンディカットという髪型です、韓国の俳優は大体この髪型にしています。

あと、女性に見られるのが多いのが、ショートパンツをはいている人がすごく多いです。食事中わかったことは韓国の人は食べるのが早いです、あと料理の量も結構多いです。行く前から分かっていたことでもありますがほとんどの料理が辛いです。食事中には水を飲まずに食事が終わった後に水を飲むというのも ASC の間に知ったことです。

途中軍役から 5 日間ほど帰ってきている韓国側の ISA の学生とも話することができて、その人は英語と日本語を少しと中国語を話せていました。ほんとにすごいなと思いました。日本語は軍隊で教育テレビみたいなのを見て勉強するそうです。日本と韓国の違いで軍役があるかないかというのは大きいなと思いました。

神戸支部 甲南大学 1 年  
鶴田 宏美

ASC は、私にとって初めてのプログラム参加だった。だが、出発前には不思議と不安は少なく、期待のほうが大きかった。ASC は、その期待を裏切らないほど充実し、よい経験となった。

韓国に足を踏み入れ、私たちはビフォー・アフターやプログラムにおいて様々な経験をした。その中で私が一番感じたのは、韓国人の思いやりである。特に、韓国の男性は女性に対してとても親切だ。重い荷物を運んでくれたり、足場の悪いところで手を貸してくれたりなど、日本人男性にはあまりないことなので驚いた。また、私は韓国語を話せないし、英語もあまり流暢ではないが、韓国には日本語を話せる人がたくさんいるので、色々な面で助けてもらった。お店に行けば、店員さんが一生懸命日本語で商品の説明をしてくれた。ホテルでは、部屋割りで問題が起こった時に、その対応を行ってくれた。道に迷っていると、通りすがりの人が丁寧に道を教えてくれた。タクシーに乗ったときには、座席にもスーツケースを乗せていたので、その隣に乗る私たちがスーツケースに押しつぶされなかと運転手さんが心配をしてくれていた。ASC で交流をした韓国の学生たちも、私たちにとっても友好的であった。皆で一緒に一つの部屋で、日韓のサッカー観戦をした夜は、とても印象に残っている。もし、私にもっと英語や韓国語のコミュニケーション能力があれば、彼らにもっと仲良くなれたらと思うに、と少し後悔している。

世間では、竹島問題の再熱など、日韓関係の悪化が騒がれていたが、それとは裏腹に、

私が出会った韓国人たちは皆優しかった。国同士の政治的問題は、国民同士の関係とは異なるものであり、持ち込むべきものではないとも思った。また、私は ASC というプログラムがあったからこそ、韓国の学生らと直接交流をして、彼らの友好的な態度や優しさを知り得た。だが、一般の学生には直接交流をもつ機会があまりないだろう。そのため、一部の情報だけに惑わされ、韓国に対して間違った認識をしているかもしれない。そういった誤解をとくためにも、ASC のようなプログラムを世間に広め、もっと韓国と直接交流をもつ機会が増えるといいと思う。そうやって、やがては国民同士の友好的関係が、国同士の友好的関係へとつながっていくことを願う。

大阪支部 関西大学 1年  
阿部 紘子

私が A.S.C 中に最も感じたのは、「人間、どこに行ってもしばらくすれば、なんでも慣れる」ということである。例えば、韓国のトイレ事情。韓国に行く前、事前調べのときに「韓国はトイレットペーパーを流さない。」ということを知った。それを知ったとき、正直とても驚いた。しかし、実際に行き、実践してみると、最初は違和感があったものの徐々に慣れ、抵抗がなくなっていった。また、韓国の宿泊先にはとにかくハエをはじめとする虫が多かった。虫はあまり好きではないので、最初はとても嫌だったが、やはりこのことも徐々に慣れていき、食事中に寄って来ても、気にすることなく食べることができた。というか気づかなかった。もちろん、食べ物によってきたら追い払うが、慌ててすることはなくなった。

なかなか慣れなかったこともあった。それは水シャワー。お湯がほとんど出なかった。「お湯が出なく、水しか出ない」という事実になれても、体はなかなか慣れなかった。冷たいものはいつまでも冷たかった。けれど、いつでもお湯が出る、という日本のありがたさを改めて知ることができたので、これはこれでいい経験だったと思う。

人間には適応力があることは知っていた。例えば、匂い。一回目に臭いと感じても、二回目になると、臭くなくなるということ。これは鼻の細胞が、刺激を弱めるために働くとか。このように人間には「慣れる」という能力が備わっている。だから、異なる文化でも慣れることができるのだ。ASC の経験からも断言することができる。なんでも慣れることができるのだから、どんどん異文化に触れていこうと思った。

とにかく人間は慣れる！慣れないことがあっても事実には慣れるし、自分の生活を改めて感じるからよし！

大阪支部 関西大学 1年

岩倉 由來

ASC 中に毎日感じたことは、やっぱりもっと英語がしゃべれるようになりたいということです。もっと子供のころ何してたとか、大学で毎日何をやっているのかとか、好きなピザの具は何なのかとか、今度ピザパーティーしようとか、もっともっと色々話たかったし、もっと伝えたい気持ちがあるのに…って思いながら時間が過ぎていきました。なので、最終日に書いたローリングペーパーで日本に帰ったら英語の勉強するので今度また会えたら、また僕としゃべってくださいって書いたら帰りのバス乗る前にローリングペーパー見たよ!!と話しかけてくれて、そのあとになんか言ってくれたのですが全然わからなくて、Yeah!!って誤魔化した自分が情けないし、超失礼なこととしてしまって申し訳ないというのが濃く印象に残ったことのひとつです。

あと、ASC 中に思ったのはたまたまそういうメンバーが集まっただけかもしれませんが、ゲーム好き!!!暇さえあればゲームしているイメージです。実際、韓国のゲームは紙コップ使うやつとかおもしろいゲームが多いですが、最終日は喫茶店でもやっていました。

あとは、ほんとに優しい、みんな優しい、みんなに優しい、会話に入れてなかったら話かけてくれたり、下手な英語もしっかり目を見て聞いてくれたり、何回もやさしさに救われました。

あと、おもしろい!!!日本語すぐに覚えて、すぐに使いこなす!!!何回変態って日本語で言われたことか、こっちに来ないでとまで言われたことも…日本人に言われたら、傷つくけど韓国人に言われたら普通におもしろかったです。

Before や After 行った釜山で思ったことは、朝が遅い!!!そしてなにより、夜が遅い!!!夜の10時、11時にABC マートがあいていたり、夜の9時くらいから出店がはじまったり、夜中でも中心街には人がいっぱいいたり、驚きました。出店といえばスムージーが僕の中では一番おいしかったです。野菜や果物と牛乳かなんかと氷をミキサーで混ぜてシェイク的な感じにしてくれて、氷がいい感じにシャリシャリで、果物の果実もいい感じに残っていて、フレッシュ感がサイコーなんです。また飲みたいです。

あと、韓国の出店に関して思ったのは、全く同じメニューの出店が2, 3軒続いたりすることです。提携とかしてるのかなと思ったりしました。あと韓国はボーリングよりもビリヤードの店のほうが圧倒的に多かったり、lotte のすごい大きな建物が何軒もあって、その建物内では、噴水ショーが行われていたり、日本とは違う世界を感じました。

京都支部 同志社大学 1年  
梶原 拓也

ASCでは本当にたくさんの方のことを学ぶことができました。外国人との交流は初めてだ

ったのではじめはとても緊張しましたが、すごく面白くてまじめな人ばかりだったのですぐに慣れることができました。ここでは特に印象的なこと二つを書きたいと思います。

まず感じたのは韓国人男子のジェントルマンなところですか。これは初日からすぐに気が付いたことです。ものすごく優しいんです。女の子はもちろん日本人の男にも荷物を運んでくれたり、なんかお母さんかっ！！とか感じたこともありました。それが普通なのかはわかりませんがとてもよくしていただきました。それに引きずられて少しだけ優しく慣れた気がします。

次に印象的だったのが飲み会です。韓国での飲み会は今まで大学で経験していたものとはまったく異なっていました。あの飲み会は強烈でした。韓国人に飲まされたと予想できますが、実は九州支部の女の子にしこたま飲まされました。威圧的で怖かったです。けれどコールもゲームも覚えたので利用していきたいと思います。

これからも韓国の経験を生かして頑張りたいです。

京都支部 同志社大学 1年

永田 良也

僕が参加したASCについて報告します。韓国は比較的日本の生活と変わらないというイメージを持っていました。驚いたことに、韓国のトイレにトイレットペーパーを流してはいけません。いろいろ思い出があるのですが、とにかく自分が英語で表現できる限り韓国人とひたすら語り合いました。軍隊の話や、恋愛話もしました。やはり思い出は日々の会話です。ほんとうにいっぱいしゃべりました。少し後悔したことは、韓国人は日本のことをよく知っています。単語レベルではかなりのものです。一方、私は韓国のことを全く知らなかった。恥ずかしいぐらいでした。もし、ASCに参加したいと思う人がいれば、最低限のことは勉強しておいた方がいいです。話題もすごく広がります。あと、やはり、英語力も兼ね備えていた方がより楽しめます。もっと英語を勉強しておけばよかったと嘆いている人もいました。英語の運用能力+身振り手振りなどもすごく便利だと感じました。ASCを通じて、自分の思い描いていた夢を再確認できました。日本のメディアは韓国のことをあまりいいように報道していないイメージがあります。そのためか、友達や親戚の中に韓国人に対する偏見を持っている人もいます。しかし、僕たちは、互いにオリンピック男子サッカーの試合を見ました。韓国側の竹島上陸作戦の最中だったのに、誰も日本について文句を言いませんでした。竹島問題も大人の汚い世界の話なのではないでしょうか。ASCを通じて、他国の人を理解するには、現地に行き、対話することが最善の方法だと改めて感じました。メディアの言うことは鵜呑みにすべきではないと感じました。ほんとうに別れはさびしかったです。ほんとうにASC最高でした。一生の思い出です。

京都支部 同志社大学 1年

本間 周英

ASC を通してさまざまなことを経験し、多くのことを学ぶことができました。はじめに、当たり前のことなのですが、韓国にも「I.S.A.」が存在していることに感動しました。ISA が国際的な団体であることを実感しました。また、僕は ASC を通して韓国がより身近に感じました。韓国人メンバーはとてもフレンドリーで親切でした。国籍は違えども、同じ学生であり、同じ ISA のメンバーであるためか、会話の内容、テンション、生活のリズムなど日本人と変わらない部分も多かったという印象を受けました。

やはり、ASC を語る上で欠かすことができないのは毎晩の飲み会だと思います。僕は、ASC 期間中は毎晩最後まで飲み会に参加しました。そのためか、飲み会の思い出がとても濃いです。初日の飲み会で姿を現した、大量のビールと焼酎を見たときの衝撃は忘れることができません。韓国人は噂通り、お酒が強く、やたらパワフルでした(笑)。韓国では数え年の 20 歳、日本で言う 19 歳から法律上、飲酒が可能なそうです。ある韓国メンバーは高校 3 年生の時、年末の大学入試が終わると、20 歳未満でも飲酒していたそうです。その時は先生が生徒にお酒を買ってきてくれたそうです。日本では考えられません。ビックリです。

帰国後数日は、ASC が楽しすぎて、なかなか現実に戻れませんでした。特に、夜は ASC の飲み会が恋しくなりました。ASC のメンバーが恋しく、あの日々に戻りたい今日この頃ですが、同じ ISA のメンバーである以上はいつか必ず再会できると思います。

ASC サイコーでした。参加できて本当に良かったです。

九州支部 北九州市立大学 2年

児玉和輝

ASC 中に感じたことは、韓国人はよくしゃべるということを感じた。自分がそんなにしゃべるほうではないからかこう感じたのかもしれないが、とにかく間が空くと何かを韓国語でしゃべっていた。それを英語に訳してもらうことなどが面白かった。あと、ASC 中の韓国人の印象としては、とにかくノリがいいなと思った。どんなことでもとにかく楽しんでた。それを特に感じたのは文化紹介のダンスの時だった。最初に韓国メンバーが踊ったのだが、どれもクオリティが日本側が準備していたものよりも高く、盛り下がるのではないかととても心配したのだが、最後にはみんなでステージに上がり

大盛り上りで文化紹介を終えることができた。この時は本当にみんなのノリの良さに助けられたなと思った時だった。

今回のASCでは文化紹介は単純に日本の文化を説明するグループとダンスをするグループに分けた。次世代へのアドバイスとしては、文化説明のグループは一問一答形式のクイズ形式にすると皆の関心が向けられやすくなる。けっこう大きな部屋で行われたので、なるべく皆の関心が向けられやすくなる形式でやったほうがいいと思う。ダンスに関しては、別に有名な曲でなくてもノリがよく盛り上がる曲ならばどんな曲でも大丈夫だと思う。振りも簡単な振りがある曲ならば皆もすぐ覚えられるので、あまり複雑な振りばかりの曲ではなく、多少は簡単な振りもあると良いと思う。あとは、みんなで盛り上がるぞという気持ちがあれば何とでもなると思う。

九州支部 北九州市立大学 2年  
杉本 美咲

8日間の韓国での生活の中で強く感じたことがあります。それは韓国人のホスピタリティ（おもてなし）の精神です。朝から晩まで準備で大変な中、スタッフの人たちを中心として積極的に英語で話しかけてくれました。母国語ではない言語を話すのは大変だし、伝わらないこともあります。一生懸命に私たちと関わろう、楽しませようとしてくれたので、とても過ごしやすい環境を提供してもらいました。疲れていても荷物を持ってくれたり、飲み会も最後まで付き合ってくれたり……。もしも自分が逆の立場だったら、絶対ここまでのおもてなしはできなかつたでしょう。ここまでのおもてなしは取れなかつたでしょう。

ASCは質の高い異文化交流ができただけでなく、人の温かさも同時に感じることであった素晴らしいプログラムになりました。

九州支部 北九州市立大学 2年  
長家 つきほ

このASCが私にとって初めてのEx参加、初めての韓国だった。初めてのExは本当に充実した毎日で、こんな日々がずっと続いてずっと彼らと一緒にいたらいいなとも思うような日々だった。私の中でなにかが変わった8日間だった。

初めて韓国の人と深く付き合ったが、本当に人懐こく親切な人たちばかりだという印象を一番に受けた。私は普段結構な人見知り、初対面の人に自分から話しかけたり話題を投げかけたりするのが苦手だ。韓国メンバーは初めて会ったときから、積極的に私たちに話しかけてくれた。

このASCで特に感じたのが、韓国人はもてなす心を大事にしているなということだ。

実際、韓国メンバーは一生懸命私たち日本人メンバーを楽しませてくれた。誰にでもフレンドリーに接し、英語が苦手な私にもわかりやすく、いろんな話題をふってくれた。

生まれた国も育った環境も全く違うメンバーだが、8日間過ごすだけで家族みたいに思えた。まるで、昔から知っている仲のように感じた。同じことを経験して同じ瞬間を過ごすだけで、こんなにも仲良く親しい関係になれるとは、このASCに参加するまで思いもしなかった。言葉の壁とか関係なくて、一緒に笑えばもう友達だなと思った。こうした経験がASCに参加して一番の収穫だと感じている。この8日間、韓国メンバー日本メンバーと心の底から楽しんだことは、きっと一生忘れないだろう。

九州支部 北九州市立大学 2年  
増永 美紀

今回のプログラムでいろいろな経験をする事ができました。プログラム中はもちろん、アフターで訪れたソウルではプログラム中では経験できなかった事も経験する事ができました。光州でプログラムが終わりソウルまでの移動を不安に思っていたところプログラムに参加していた北京大学の学生と一緒にバスに乗ってくれることになり日本人の参加者を含め10人でソウルに向かいました。ホテルのスタッフは日本語はもちろん英語もしゃべることが出来ず意志疎通に苦労しましたが誤解も無くホテルに滞在する事ができたのはよかったです。日中はソウル市内を観光しましたが、いろいろなところで日本との違いを感じました。地下鉄の乗り方やエスカレーターの乗り方さえも違う為、マナーを知らなければ失礼に当たることもありガイドブックなどである程度その国のマナーや文化、歴史を知っておく必要があると感じました。私は大学で韓国語を履修しており、今回のプログラムは国際交流を主な目的としていましたが韓国語を今後勉強する上で、韓国語を勉強したいという意欲向上に繋がればという思いもありました。実際韓国へ行ってみると勉強としての韓国語ではなくいきなり韓国語に触れることができ、喋りたいという欲求が深まりそういった面においてもプログラムに参加してよかったと感じました。ソウルから日本へ帰る際、高速バスで釜山まで行きそこから国際ターミナルに行くために地下鉄を利用したのですが、地下鉄の階段を下りる際エスカレーターがなく階段を重たいキャリーケースを持って降りていたら見知らぬ人が私のキャリーケースを持って降りて行ってくれました。突然のことで呆気にとられ一言感謝の言葉しか言えませんでした。日本では重いものを持っていてもなかなか率先して人の荷物を運べるような人が少ないこともあり驚き、そして見習うべきだなと感心しました。今回のプログラムでいろいろな事を学びましたが、隣国である韓国のイメージが変わったことが私にとって有益だったと思います。



九州支部 北九州市立大学 2年  
山崎 雄一

ASCは僕にとって初のEx。とても貴重で新鮮な体験をさせていただきました。同行した九州支部の同回生は頼りになる素晴らしい人たちでしたが、初めて会う他支部の方、韓国人参加者、初めての土地、自信の無い英語、という環境の中、不安でいっぱい正直なところ出発前はあまり気乗りしませんでした。しかし、関西の支部の人たちは頼れる先輩、かわいい後輩ばかりで、今まで仲良くなれていなかった九州支部の後輩とも深くかかわることができ、僕の不安は杞憂と終わりました。特に韓国人の参加者はジェントルマンと呼ぶにふさわしい方たちばかりで、僕たち日本人を厚く歓迎してくれました。つたない英語でもじっくり来て理解してくれ、何か困っていることがあると助けを呼ぶ前に駆けつけてくれました。今、ネット上では韓国人に対する偏見に満ちた言動にあふれており、僕はそれを不快に思っていました。しかし、実際にふれあってみると日本人と同じような礼儀と親切な心を持っていました。ネット上のイメージだけで国民性を決めつけてしまうことは現代ではよくあることです。ただ、それだけですべてを判断することなく、実際のところはどうかの难道う？という疑問を現代人は抱くべきだと僕は考えます。このASCを通して、韓国という土地、韓国人の人柄を知ることができ、僕の中でとても大切な思い出となりました。参加者の皆さん、大学2年生の夏を素晴らしいものにしてくれて本当にありがとう。

九州支部 北九州市立大学 2年  
吉武 実保

ASC本当に楽しかった。初めは、韓国と日本はあまり変わらないし、楽しめるかがとても不安であった。日が経つにつれて、色々な経験もできたし、みんなとの仲も深めることができた。そして、何より日本人もだけど、韓国人ともこんなに仲良くなれるなんて思わなかった。あまり英語がしゃべれないし、全然通じなくて、言葉の壁をととても思い知らされたりもした。しかし、お互いに相手の言語を覚えて、コミュニケーションをとることで、さらに仲が深められた。また、韓国人とは笑いのツボも合うので、本当に面白くて、楽しい時間を過ごせた。みんなと離れたくないと心から思った。毎日お酒を飲んだり、ミッションゲームをしたり、遊んだりとたくさんの思い出ができた。さすがに、お酒飲んだ翌日の山登りはけっこうきつかったけど、楽しかった。韓国人は本当

に元気でパワフルで、韓国人との小学生に戻ったようなたわいもない遊びややりとりが何よりも楽しいと感じた。今回の ASC で韓国にハマったので、また韓国のプログラムたくさん参加したい！

九州支部 北九州市立大学 1年  
赤木 唯花

わたしはこの ASC によって様々な刺激を受けました。正直に言うと、わたしは最初 ASC に参加したかったのは、ただ韓国に行ってみたくったという観光やショッピングを楽しみたいと思っていた部分がありました。わたしは英語がかなり苦手だから交流はあまりできないだろうとも思っていました。しかし実際に ASC に参加してみて、わたしが想像していたこととは全く違いました。もちろん韓国での海や茶畑などでの観光や、Before・After でのショッピングは、ほんとに楽しかったです。しかしそれと同じくらい、いや、それ以上に韓国人との交流が楽しかったです。もし交流をしていなくて、普通に観光だけしていたら、ここまで楽しむことはできなかったと思うほどです。英語が苦手なわたしだったので、最初は自分から話しかけることができませんでした。しかし、韓国人の人たちから話しかけてくれて少しずつだけ自分からも英語で話しかけていくことができました。韓国の人たちはかなり英語を話すことができていたのに対し、わたしの話す英語は単語を言っていただけみたいなき感じだったけど、韓国の人たちは理解してくれて会話をすることができました。また、しっかりとした会話をしなくても、ノリでなんとかなった部分もあったり、スポーツや飲み会、ミッションゲームなどで関わっていくうちに、どんどん仲良くなり交流を楽しめました。ASC は 10 日くらいあったけど、寝るひまもないくらい充実していて、わたしが生きてきた中で一番楽しかったといえるくらい、ほんとうに楽しめていい思い出になりました。最後の別れの会では、ほんとうに ASC が短く感じて、もっと韓国でみんなと遊んでいたいと思い、別れが悲しかったです。でも、日本に帰っても facebook で連絡をとりあうことができるので、この繋がりを大切にしていきたいです。そして今度は、日本でまたみんなと集まれたらいいと思います。

しかし、日本に帰ってきた今、やはり英語がもっと話せていたら、もっと楽しめたかもしれないと後悔しています。それと同時にこれから英語をもっと勉強しようとする気になりました。国際交流の楽しさをこの ASC で知って、これから英語をしっかりと勉強しながら、ISA のプログラムに積極的に参加していきたいです。また、今回の ASC の楽しさや、参加したことで得られたことを、来年入学してくる後輩たちに伝えていきたいです。

わたしにとって ASC は初の海外でした。日本以外の国に行ったのは初めてで、かな

り新鮮でした。文化、食事、言語、通貨が、海を越えただけでここまで違うとはほんとうに驚きました。韓国に行ったことは、わたしのこれからのきつと影響していくと思います。ここまでASCを楽しめたのは、これに関わったたくさんの人の努力や協力があったからだと思います。そのことに対して、しっかりと感謝をしたいと思います。

九州支部 北九州市立大学 1年  
石野 詩織

ASC中に感じたことはとにかく楽しいの一言につきます！韓国の男の人は先輩達からかなりジェントルマンで優しいとは聞いていましたが予想以上に優しくてびっくりしました。

例えば、ご飯を食べる時にお肉が大きく食べにくいことがありました。その時には食べやすいサイズに何も言っていないのにきづいて切ってくれたり、また、辛い食べ物の時には食べやすいように辛さを減らすようにしてくれたりとても優しくかったです。キャリーケースを運んでくれるのも当たり前のようにしてくれてびっくりしました。

他に感じたことは英語という言語があることによって母国語が違うはずなのに会話を困ることなくできるということのすばらしさです。私は韓国語はサランヘヨとオッパというたった二つの言葉しかわからずに韓国に行きました。韓国人の方ももちろん日本語はわかりません。しかし英語を使うことによって簡単に不便に感じることもなく会話ができるのです。思ったこと、感じたこと、したいことが通じることのすばらしさをかなり実感することができました。

九州支部 北九州市立大学 1年  
池上 聖子

今回のASCで行った韓国は私にとって初めての韓国でした。出国前から自分たち学生だけで海外へと出ることに不安でいっぱいでした。しかし、しっかり者の礼美と奈七美と一緒にだったので問題なく出国も入国もできました。Beforeではとにかく二人に頼りつきりでした。安心もしましたが、自分は一人では何もできないな、と内心ではひどく落ち込みました。そして、しっかりしなくては、と自分に言い聞かせたことをよく覚えています。ASCのプログラム初日、この日は緊張と期待と不安でいっぱいでした。外国の人と英語で話すということはあまり経験したことがないし、自分の思いを英語で伝えることが出来る自信も、相手の英語を理解できる自信もありませんでした。それに私はもともと人見知りのところもあるので、より不安でした。そういうところがあるからこそ、頑張ろうと思って最初は積極的に話しました。実際に話してみると文法とか発音は全然気にせず話すこ

とが出来たし、ジェスチャーや表情だけでも人とコミュニケーションはとれるのだと気づきました。それまでの、緊張したり、不安に思っていた自分が馬鹿みたいだと思いました。そして英語やたまに韓国語などの日本語以外を使って人とコミュニケーションをすることはとても楽しいことだと思いました。

プログラム中は本当にいろいろなことを経験しましたが、どの行事もみんなで仲良く一丸となってこなせたと思います。こんな短期間でこんなにも打ち解けることが出来るものなのだと驚いたし、嬉しさもありました。また、日本語を理解できたり話したりできる韓国メンバーを尊敬しました。私は授業で朝鮮語をとっているけど全く話したり理解できるレベルではないため、自分も後期から頑張ろうとモチベーションが上がりました。

そして最終日、たったの八日間でもとても仲良くなった ASC のメンバーとお別れしました。本当に短い時間だったけれど、この ASC でできた友情はずっと私たちの宝物であるのだろうと思います。絶対に忘れることのできない毎日を過ごせました。

梨世さん、ASC メンバーのみなさん、本当にありがとうございました。

九州支部 北九州市立大学 1年  
伊集院 怜美

ISA に入って間もない5月、ASCに参加をするか迷っていたとき、背中を押してくれたのは先輩の言葉だった。"絶対参加した方がいいって！"笑顔で自信に満ちた口調でそういう先輩に、少し騙されてみようかな、なんて思ったのがきっかけだ。応募してまもなくアプリケの締め切りが迫り、少し慌ただしくなった後はふっと忙しさも消えた。出発まで約1ヶ月という頃、ようやく文化紹介の準備に取りかかった。思うようにいかないメンバーとの連携に、なぜ自分だけがテスト勉強の時間を割いてまでこんなことをしなければならないのか、と苛立ちを覚えることもあった。

そんなこんなで期末テストを終えた翌日、いよいよ出発の日がやってきた。文化紹介の準備では嫌な思いもしたが、迎えた当日はわくわくする気持ちであった。みんなで船に乗り込み、一夜開けた次の日、他支部と合流しての勉強会を行った。これから約1週間をともに過ごす仲間たちとの対面、しかしその日は支部ごとに固まるばかりで、実際に仲良くなれたのはプログラムが始まってからだった。後談だが、九州支部のわたしたちは、他支部には近寄り難い存在であつたらしい。

そして迎えた ASC。日本人のキャリーケースを運んでくれる韓国人の優しさを、出会って1日目でいきなり目の当たりにし、日本人側は感動するばかりだった。事あるごとに気を遣ってくれる韓国人メンバー、コミュニケーションをとる際も、きちんと話に耳を傾けてくれた。反日運動など、日韓のよくない関係ばかりが取り沙汰されるなか、そのイメージを払拭するように、韓国人メンバーはいい人ばかりだった。

ASC 中、合計3つのユースホステルに宿泊した。2つ目、3つ目と変わるとにグレードアップするユースホステルに、わたしたちのテンションも上がっていったのは忘れられない。1つ目のユースホステルでの活動は自己紹介やオリエンテーション、夜のゲームと合流と、比較的軽い活動となったが、2つ目のユースホステルに移る日からは、広州の中心街でのミッションゲームや Green farm、海水浴や Mad Flat と、中身も充実し始めた。2つ目のユースホステルは海から近くに立地していたこともあり、夏らしいことがたくさん出来た。その他、トレジャーハントや伝統芸能の鑑賞、文化紹介やオリンピック、BBQ や Rolling paper などの活動を行った。連日の寝不足の中、真夏の太陽にじりじりと肌を焼かれ体力を奪われながら、ぎっしりと詰まったスケジュールのなかで行動をした。移動のバスが貴重な睡眠時間となっていたのも、ちょっとした語り草であり思い出だ。

様々な活動を通し、次第に韓国人メンバー、そして日本人メンバーとの仲を深め、徐々に活動に深みが出始めたころ気付けばもう残された時間はわずかだったのを覚えている。ASC メンバーの絆を育み、今現在にまで続かせてくれているのは、やはり ASC ナイトでの出来事だったのではないかとわたしは思う。韓国人メンバーによるダンスの披露、九州支部メンバーによる浴衣、甚平での炭鋤節、会いたかったと女々しくて。ノリの良い韓国人メンバーのおかげですごく盛り上がり、その夜、わたしたちがひとつにまとまり、確かに絆を生み出したように感じる。文化紹介係りとして自分がやり遂げた仕事に誇りを持たし、それを作り出してくれた仲間への感謝でいっぱいだった。参加してよかった、そう強く実感したのは、紛れもなくこの瞬間だった。

そして2日後に迎えた別れの日。慌ただしくユースホステルを離れ、朝鮮大学周辺で最後の食事をとり、大学に戻っての Closing ceremony。プログラム中に撮った写真がスライドに映され、その数々の写真を見ながらわたしは胸がいっぱいになった。まだ帰りたくない。もっといっぱいみんなと話せばよかった。そんな後悔を持つことになろうとは、参加前には想像もつかなかった。みんなと記念写真を撮り、バスの時間の関係でまたも慌ただしく大学を離れタクシーに乗り込み、ターミナルへ着いた。渡された釜山行きのチケット。"お別れ"のときが迫っていることを告げていた。ゲートをくぐるその道に韓国人メンバーが立ち、わたしたちひとりひとりと握手を交わし、見送ってくれた。お兄ちゃん的な存在の人が優しくハグしてくれたのをわたしは忘れない。

こうして幕を閉じたASC。寝不足のなかでのハードスケジュール、そして Green farm での山登りはきつかったが、今はそれもいい思い出だ。みんなの優しさ、そして面白さも、全部絶対に忘れない。たった1週間ではあったが、ものすごく中身が濃く充実していた日々。きっとあのメンバーだったからだと思う。そんな大好きなメンバーに出会えたことに感謝し、これからも絆を深めていきたい。

九州支部 北九州市立大学 1年  
加島 杏理

私は初めて参加するプログラムが ASC で良かったと思います。

初めて異国の人と長く一緒に過ごすことに楽しみ半分不安半分でした。仲良くなれるのか、自分が英語を上手く使えてコミュニケーションができるのか、などなどたくさんの不安がありました。そして、その不安は1日目に的中しました。自分の英語力のなさが明らかになり、言いたいことが伝えられずこれからどうなるのだろうと思いました。けれど2日目にその不安は消えました。

韓国の方は、私が伝えようとしていることを一生懸命理解してくれようとしたり、顔の表現や、仲間が助けてくれたり、楽しくコミュニケーションをすることができるようになりました。そしてそのコミュニケーションが楽しくてずっと会話していきなりました。そして韓国の方、他支部もちろん九州支部の方も、皆優しくておもしろくて、楽しむときは楽しみ、話し合いのときは話し合い、切り替えのできる楽しい方たちばかりでした。

ASC 中、特にびっくりしたことは韓国の男性の優しさ、心の気配りにびっくりしました。すべて韓国の男性が用意してくれたり、荷物を持ってくれたり、心配してくれたり、日本人女性は圧倒されたと思います。私はすごく圧倒されました。

そして after で釜山とソウルへ行った時も、韓国人の優しさにはたくさんふれました。改札口が分からないで迷っているとそれを察し教えてくれ案内してくれたり、切符の買い方がわからないと代わりに買ってくれたり、階段を大きなキャリーケースを持ち上げているとまったくの通りすがりの人が持ち運んでくれたり、道に迷っていると親切に地図まで書いて教えてくれました。

反日の人がいると聞いていた韓国で、まさか日本人である私たちにそこまで優しく親切に接して下さるとは思ってもいませんでした。

ニュースやネットでは、韓国が日本に対しての悪いことなどしか流れていません。けれど、その地に立って、改めてニュースやネットの情報だけに流されてはいけないなと感じました。私は今回の ASC でさらに韓国が大好きになりました。

九州支部 北九州市立大学 1年  
川内 結香子

ASC を通じて感じたことが4つあります。

1つは、英語の重要性です。ASC 期間中は、公用語は英語でした。韓国の方や他支部の方、もちろん友達も英語がうまく話せる人が多く自分の英語力の無さに改めて気付く

ことが出来ました。韓国の方は、みなさんととても英語を話すのが上手でした。私のあいまいな英語も頑張って解釈してくれました。そこで思ったことは、今後社会に出る上で英語はとても重要になるのだと思いました。英語は世界共通であるため、英語を話すことが出来ればいろいろな国の人と会話できると思いました。ASCの間伝えたいことはいっぱいあったのに英語でうまく表現することが出来ず、悔しい思いを何度かしました。だから私は、これから英語の勉強を頑張ろうと思いました。

2つめは、言葉が通じなくても気持ちや表情、ジェスチャーなどで意思の疎通ができるということが分かったことです。さっきも述べましたが、私は英語があまりうまくしゃべれず言葉が通じないことが多々ありました。しかし、顔の表情やジェスチャーなどで分かり合えることが出来ました。大事なものは、伝えようとする気持ちだと思いました。

3つめは、異国の文化に触れることの楽しさに気づいたことです。まずは、食事です。食事は、基本的に辛いものが多く、多くの種類の漬物のようなものがでてきました。必ずキムチも出てきて、辛くて食べられないものもありましたが、美味しいものもあり日本では食べられないものが食べられて良い経験になりました。次は、トイレです。トイレは、日本のものとは違い、トイレ1つ1つにトイレットペーパーがついていませんでした。トイレットペーパーを流す習慣がないらしくそこに備え付けてあるごみ箱に捨てることに驚きました。洋服なども、足や腕などを見せる露出の多い服が多かったです。異国の文化に触れ、異国の文化に合わせて生活することで、相手の異文化を理解でき受け入れられることが出来ました。これが国際交流の一つであると感じました。

ASC 期間中、日本と韓国は竹島問題などでトラブルが生じていました。しかし韓国の方はそのような素振りを見せずに私たちにいつも通りよく接してくれました。サッカーの日韓戦も一緒に観戦し、お互いを応援したたえあうことが出来ました。現実では対立している韓国でも暖かく差別することなく接してくれてとてもうれしい気持ちになりました。日本人でも韓国人でも一人の人間であり、暖かい人たちと仲良くなれてよかったと思いました。

九州支部 北九州市立大学 1年  
竹本 早希子

はじめは支部の人とすら仲良くなれるか不安だったけど、他支部の人とも韓国の人とも仲良くなれてすごく楽しいプログラムを過ごすことが出来ました。特に韓国の人たちとは言葉も通じないしどうなるのかなと思ったけど言葉とかあんまり関係なくて、優しいこととか、自撮りが好きなこととか、恋愛の話とか、ミッションゲームやディスカッションを通していろんなことを知ることが出来ました。普通に韓国に旅行しに行ったら観光とかして終わりだと思うけどプログラムでは韓国の学生と何日も過ごすことがで

きました。みんなと同じ部屋で寝て毎日みんなと過ごすのがとても楽しかったです。英語をちゃんと話せなかったけどなんとなく会話できたし、ゲームをしたりサッカーをみたりすごくたのしかったです。それにノリが若くてなんでもおもしろかったです。

びっくりしたのが兵役のことです。2年間も兵役に行かないといけないと聞いてびっくりしました。ほとんどの人が大学を休学して行くとかいっていたので大変だなと思いました。今年の9月から行くと言っている人もいたし、行きたくないと言っていて、今まで兵役のことを聞いてはいたけど、本人から聞くととても現実味が増しました。日本は兵役がなくてラッキーな国なのだと感じました。

ASCほんとにすごく楽しかったです。メンバーにまた会いたいです。今回プログラムに参加できて本当にいい経験ができたなと思いました。英語が喋れなさすぎて情けなかったのこれから英語をしゃべれるように努力しようと思いました。

九州支部 北九州市立大学 1年  
鳥畑 礼未

今回、初めての海外、初めてのプログラム参加ということで少し緊張していましたが、とても良いメンバーに囲まれ、最高の体験が出来たと思います。勉強会の日に関西のメンバーとも合流しましたが、みんな気さくな人たちばかりで、すぐに仲良くなれました。同じ九州支部のメンバーが多かったため、ASC中はなるべく関西支部のメンバーと絡むように心がけていたのがよかったのか、たくさんのお友達が出来ました。これは、日本人同士に限らず、韓国人メンバーともとても仲良くなれました。韓国人メンバーは日本人よりも更に積極的に明るいメンバーがたくさんいました。お互いに母国語ではない英語で会話をするのは、決して簡単なことではありませんでしたが、簡単には伝わらなくても一生懸命伝えようとする楽しさもありました。帰国してからも韓国人メンバーとは Facebook や LINE などやりとりをしていますが、今回の出会いを通じて、もっと英語や韓国語を勉強したいと思うようになりました。一週間のプログラムは本当にあつという間でしたがとても充実していたので、別れの日には本当に悲しかったです。自分があんなに泣くとは、全く想像していませんでした。

このASCはわたしの価値観やいままで人生で得た知識などを、良い意味で壊してくれたと思います。これから、たくさんExに参加したくなりました。もっともっとたくさん異文化に触れてみたいです。想像以上に良い経験ができました。本当に参加してよかったです。

九州支部 北九州市立大学 1年  
吉村 奈七美



6日から13日までASCに参加しました。ASCでは日本に居たらできないこと、日本に居てもなかなか踏み込めずにいたことなどを体験することができました。海に投げられたことや、FLY LAMP、NORIZONEという乗り物にのれたこと、虫が沢山いるユースホステルで寝泊りしたこと、部屋中に紐をはって洗濯物をほしたこと、水のシャワーを浴びたこと、シロップの一気に飲みをしたこと、これ以外にも沢山ありますが全てが良い体験でした。日本での生活ではお風呂に入れば暖かいお湯が出て、ふわっとした布団と枕を使って寝られることが当たり前でした。しかし、韓国での生活を通して今の暮らしを当たり前と思わず、もっと感謝して毎日過ごしていこうと思いました。そして、韓国の学生さん達との交流を通じて思ったことは何よりも明るいということです。中には26歳の人もいたけど、すごく楽しそうにふざけていて、ちょっかいいも出したりしていてすごいなと思いました。日本では大人なんだからみたいと言われることがあるけど、いくつになってもそういう若い面を持っていけたら素敵だなと思います。私も年相応に落ち着いていきながらも、ふざけた部分をもっていきたいと思います。そしてASCを通して一番感じたことは、上手く喋れるかどうかより、喋ろうという意識が大事だということです。これは当たり前のことだと思いますが、私にとっては難しいことでした。しかしASCでめちゃくちゃな英語を使って話した時や、教えてもらった韓国語の単語で話した時は、とっても楽しいと思いました。これから他のプログラムに参加するときは、単語でもどんどん話していきたいと思います。そして、どんどん新しいことに挑戦して様々な文化に少しでも慣れることができればいいなと思います。

## \* テーマエッセイ

### 『日韓関係』

神戸支部 関西学院大学 4年  
横治 航太郎

ASCが終わり、帰国して驚いたことがありました。「竹島(独島)」に関するニュースが日本中に席卷していたことです。8月10日に韓国の李明博大統領が竹島に上陸、以来日韓関係が再び対立状態に近い状況になっています。

8月10日といえば、ASC真っ最中であり、この日もひどく飲んで騒いでいた記憶があります。そんな日にそういったことが起きていたことは知らず、帰国後にこの事実について初めて触れたかと思います。

韓国の学生たちと約1週間、共に同じ時間を過ごして、素晴らしい思い出をつくることができた私自身にとっては、この問題はそんなに過剰に反応しなくてもいいのになあと思ってしまうのが正直なところだ。

単に竹島に関して、あるいは日本の領土に対して特に強い関心がないだけなのか、それとも対立を避けたがる思いからなのかもしれませんが、私は事態を静観しておきたいなと思っています。

ただ、インターネットに掲載されるニュース記事に対する閲覧者からのコメントには驚きや一種の恐怖さえも感じるようになって多くなりました。

あるニュース記事に対するコメントの一部を見てみると、「帰れ、半島人」、「韓流ファン＝売国奴」、「自分達の馬鹿さ加減に早く気付けよ。少しはキムチ食べるの控えろよ!」、「自分の行いが間違っていると気づかない下衆韓人」といったものまで。あまりにも言い過ぎであり、発言者に対して愚かささえ感じます。

あくまでネット上の書き込みであり、相手に面と向かって発言していないことから、過激な発言になってしまった、そして本心からの声では必ずしもないとは思いますが、このようなことを今回ASCで出会った韓国メンバーに向かって言うことは、私は間違ってもできません。

ASCでの彼らとの生活は非常に楽しく、またプログラムの準備や進行などの運営面や、韓国料理の食べ方や韓国語を教えてもらうなど生活面でのサポートも彼らは親切に行ってくれました。

彼らとはASCを通じて今では「友人」であり、友人に対して政治情勢などを理由に対立感情が生まれることはまずあり得ません。

今回のASCを通じて、自分は良い意味で狭い視野を持つことができたのかもしれませんが。「韓国・韓国人」というレベルのフィルターから、「韓国の〇〇さん」という個人レベルからの視点を得ることができたと思います。

確かに政治行為としてのみ捉えるならば、私も疑問を感じられずにはいませんが、それに加えて「一人の友人がその国にいる」という視点を持つことができれば、その国に対するイメージや感情は大きく変わるかと思っています。

事の事態を広く捉えるのも重要ですが、時には「狭く」捉え、冷静に物事を捉える姿勢も重要ではないかと、ASCを終えた今、私が思うことです。

今では韓国はかなり身近な国になったかと思っています。最も近い隣国ということで直接的な理解の機会は十分に存在します。根拠のない抽象的な、過激な他者の感情に左右されずに、一度彼らと直接言葉を交わし、改めて今の情勢を捉え直してみるのも重要であると思います。

## 『韓国の国民性』

神戸支部 関西学院大学 1年

石井 志帆

ASCに参加して、自分の今まで持っていた韓国に対するイメージが覆されることが多々ありました。その中でも一番わたしを驚かせた“国民性”について書きたいと思います。

わたしは今までに外国に行ったことがなく、初めての海外が韓国でした。ネットで韓国のことについて調べると、国民性について、韓国人は自が強く、自分の意見を強く主張する、誹謗中傷を平気で発言するなど、否定的に書かれた記事が目立ちました。この記事を見て、すごく不安になりました。わたしなんか韓国でやっていけるのだろうか。ともだちになれるのだろうか。そんな不安を抱えながら参加したASCでした。

韓国人参加者と対面してすぐ、日本人と韓国人の間には遠慮というかぎこちない雰囲気は漂っていました。しかしその雰囲気も初日のWELCOMEPARTYでがらっと変わり、お互いがお互いのことをもっと知りたい。と思うようなわいわいとした雰囲気になりました。

一番強くわたしが思ったのは、韓国人はとにかく優しい。その心遣いに感動しました。重い荷物を部屋まで運んでくれたり、ご飯をよそってくれたり、みんなで使ったものを片付ける時も韓国側でやるからいいよ。と言葉をかけてくれました。日本人が使った部屋のごみの回収まで韓国側がお世話をしてくれました。ASC中、韓国側の心遣い、優しさにわたしたちがどれだけ支えられたか、助けられたか言い表し難いです。わたしはある韓国人参加者に問いました。「あなたの一番好きな言葉は何ですか？」すると返ってきた言葉は「ありがとう」。きっと素直に感謝できる心が韓国人の優しさの原点じゃないかな。と思いました。

ディスカッションでは、自分の過去、現在、未来について話しました。正直、自分の発言が批判されたら、ばかだなんて思われたらどうしよう。英語で話せるだろうか。そんな不安がぐるぐるしていました。しかし、わたしが話しているとき真剣にうなずきながら聞いてくれて、英語での表現の仕方に迷っていると待っていてくれて、その温かさがすごくうれしかったです。そして、みんな素敵なお夢を持っていたこと。心の底からみんなの夢が、願いが叶えばいいと思いました。最終日の前夜、みんなでノートにメッセージを書きあった時のこと。わたしのノートにはディスカッションで同じグループだった人から“わたしはあなたが夢を叶えるのを待っています。”と英語でメッセージが書いてありました。言葉にできない想いがあるって、夢叶えなきゃ。と強く思いました。ASCが始まる前と終わるころでは私が抱えていた国民性は全く逆で、自分の夢や考え方をしっかり持っていて、他人の夢や考えも受け入れてくれる。どこまでも親切でこちらが申し訳なくなるほど気を遣ってくれる。わたしが出会った韓国人はこういう素晴らしい人

たちでした。ネットで調べた国民性よりも、わたしが自分の目を見たことを信じたいと思います。

## 『韓国の街事情』

神戸支部 関西学院大学 1年  
坂平 美和

ビフォー・アフターを含め約2週間韓国に滞在した。滞在期間中、日本との違いで驚いたことも多かったがその中でも特に日本と違うと感じた「街」のことについて取り上げようと思う。

### ①カフェがいたるところにある

ビフォーで訪れた釜山で特にカフェの多さに気づかされた。左右いたるところにカフェらしき店が立ち並んでいた。間隔はだいたい4店舗隣ずつぐらいであって本当に驚いた。歩きながら飲み物を飲んでいる人は日本と比べて圧倒的に多いと感じた。売っているものは飲み物・パン・パフェなどなど日本のカフェよりも種類が豊富だと感じた。韓国人の友人に聞いても韓国人、特に女性はカフェが大好きで友達と遊ぶときは何度もカフェに足を踏み入れるそう。まったり食べたり飲んだり話したり...韓国人が話好きなのはこの名残があるのかとも思った。

### ②とにかくゴミが多い

韓国の街を歩いているとほとんどの道路全面にゴミが散らばっていた。日本ではゴミが落ちていてもタバコの吸殻など少数が端の方に捨てられているのを目にすることが多いが、韓国では道路・歩道に堂々と捨てられているので歩くときはいつもそれらをよけながら歩くような感じだった。ゴミはカフェで買ったとされる飲み物の入れ物が圧倒的に多かったと思う。ネイルサロンの前の道路などは日本だと綺麗に掃除して客を迎え入れるような感じがするが、韓国のネイルサロンの前は普通にゴミだらけで驚いた。日本ではコンビニの前、お店の前にはゴミ箱があることが多いが、韓国では少なかった。そのことも影響しているのかもしれない。

### ③化粧品のお店が多い

韓国の化粧品を目指してやってくる日本人観光客が多いのも事実であるが本当にコスメショップはいたるところにあった。同じ店舗が2軒隣ぐらいにあることもあり間隔も狭い。違う系列の店だと隣同士がコスメショップというのはもはや普通だった。やはり日本人観光客が多いのか、観光地では店に入った瞬間から巧みに日本語で対応してくる。

日本の接客と違うなと感じたのは店内を見ているとき必ず店員が後ろをつけてくることだと思う。万引き防止なのか、親切にコスメの紹介をするためなのか...今でもよくわからない。

### 『韓国人の人柄』

神戸支部 関西学院大学 1年  
佐々木 唯衣

私は、韓国人の人柄について書きます。

韓国人はなんといっても、優しいです。地下鉄の階段にキャリーバックを持って上り下りするのはとても大変で、毎回困っていました。その度に、通りすがりの人たちが力を貸してくれました。日本では、みんな見て見ぬふりをする人が多いです。しかし、韓国では何も言っていないのに自発的に手を貸してくれました。しかも、若い人はもちろん遥かに私より年をとっている人や女性までもです。そんな、韓国人の人の心優しさに何度も助けられました。

また、韓国の地下鉄に乗ったときに驚いたことがたとえ席が空いていても若い人は、誰ひとりとして優先座席に座っていないのです。ここまで、徹底したお年寄りへの配慮に感激しました。これは、高齢化が進む日本は見習わなければならないなと思いました。

### 『韓国人の礼儀』

神戸支部 関西学院大学 1年  
中村 由佳

私が韓国に行くととても印象深かったのは、韓国人の礼儀です。もともと儒教の国である韓国は日本よりも礼儀があり、特に自分より年上の人に対してはとても礼儀がしっかりしていると思います。これは日本も見習うべきことだと思いました。例えば、日本ではよく、「お年寄りに席を譲りましょう」というのを耳にしますが、韓国ではそのようなことは言われなくてもみんなが当たり前のようにしています。私が韓国の釜山でバスに乗った時に、それを心から感じました。また、2週間韓国人メンバーと寝食を共にしてわかったことですが、韓国人の自分より目上の人に対して態度が本当に素晴らしいと思いました。日本人はなかなかあそこまでできないと思います。また、私が韓国に行くと感激したことがあります。それは韓国人男性は女性に対して親切だということです。ドアを開けてくれたり、暑いときに飲み物を取ってきてくれたり、重いものを持ってくれたりと小さなことですが、すべての日本人女性は感激したと思います。これも韓

国の文化に根付いていると思うと、日本人男性も見習ってほしいです。

### 『韓国の接客事情』

神戸支部 関西学院大学 1年  
細川 知奈美

私は韓国の接客事情について書きたいと思います。私はプログラムに入る前にビフォーとしてソウルを訪れました。ソウルのコスメ店などの店員さんは日本語がペラペラで日本人に対して自らよってき、商品の購入を勧めてきました。料理店も、店員さん自ら道路にきて日本語で勧誘していました。しかし私が釜山、光州に行ったときには日本語を喋れる店員さんはほとんどいませんでした。やはりそれはソウルには日本人観光客が多く訪れるということが理由なのだろうと思います。ソウル・釜山・光州は韓国の三都市ではありますが、やはりこの三都市には大きな違いがあるのだということを感じました。また韓国の接客と日本の接客の違いを大きく感じました。日本の接客は基本的にお客様第一。仕事は自分の日常生活とは違い、特別なものです。韓国においてもお客様第一であるかもしれませんが、接客態度にいくつか疑問をもつ点がありました。私が見かけたのは、営業中にアイスクリームを食べていたり、化粧をしたり、レジを打ちながら携帯で話をしたりといったものでした。それに私たちが拒否しているのにもかかわらず無理やり手を引っ張られ店に入れられたこともありました。また私が昼食に入ったお店では、私たちが入ってきたのにもかかわらず完全無視で、ずっと片づけをしていました。韓国は日本とは違い仕事と日常生活との境界線があまりはっきりとしていないのだなと感じました。私たち日本人は仕事と日常生活を基本的に切り離す傾向があるので、韓国の接客態度をみると疑問を感じますが、韓国の方々からみるとこれは、いたって普通の光景なのだろうと思います。この接客態度の違いに私は興味を持ちました。もちろん全ての店がこのようなわけではなく、すごく気持ちのいい接客をしてくださったお店もありました。

### 『韓国の食文化』

神戸支部 甲南大学 1年  
衣田 裕紀

韓国に行ってみて、いちばん興味を持ったことは韓国の食文化についてです。いちばん印象に残っているものはやっぱり辛いものです。その代表として出てくるのはキムチ

です。料理には必ずキムチがついてきました、しかもそのキムチは日本で食べるキムチと違って、けっこう辛いものでしたがおいしかったです。

つぎに、ご飯は日本の米と変わりませんでした、なので食べやすかったです。スープも冷たかったり温かかったり・・・でもそんなに辛くなくて飲みやすかったです。まあ、辛いものが少し苦手って人でも大丈夫な感じでした。

韓国の料理店では料理を注文するとキムチやナムルなどのおかずが無料でたくさん出てきます。そのおかずだけでも十分というくらいたくさん出てきます。

食器類は全部金属でした。最初はスプーンと箸の使い分けがよく分かりませんでした、韓国の学生が食べているのをまねしてやっていたらなんとなく使い分けはわかりました、ご飯や汁物はスプーン、おかずは箸を使うという感じです。そして、ひとつ驚いたことがあって、それは韓国では水は食事の最後だけ飲むということです。でも辛いので僕の場合、日本と同じように食事中は何度も水を飲みました。

それと食器は基本置いて食べます。日本では礼儀正しくないとされますが、韓国ではそれがマナーです。別に持たなくて不便ということはありませんでした。

韓国には食事中はあぐらをかくという文化がありますが本当でした。お店も座敷に上がるスタイルの店が多くて、あぐらがかかるようになっていました。

日本に帰って知ったことがあって、それは drinking でお酒を飲むときに韓国人の学生が後ろを向いて飲んでいてのを見て、飲んでいてのを見られるのが嫌なのかなとその時は思っていたのですが、調べてみると後ろを向いて飲むのが礼儀だと知って驚きました。

## 『日韓関係』

神戸支部 甲南大学 1年

鶴田 宏美

日本と韓国は地理的に近い場所に位置しており、昔から多くの交流がなされてきた。韓国は日本の、最も身近な国のひとつといえる。そのためか、韓国に実際に足を踏み入れると、日本のものを多く目にした。スーパーに行ってみると、日本のお菓子やインスタント類が、日本語表記そのままに販売されていた。ゲームセンターには、日本のプリクラ機種ばかりが置かれていた。道を歩いていると、日本語表記の看板を何度か目にした。

また、日本のドラマや映画、歌手なども韓国で人気があるようだ。韓国のカラオケの歌本には、日本の曲が多く載っていて、ASC で出会った学生たちは、それを日本語で歌っていた。つまり、韓国には日流というものが存在していたのだ。これは、日本ではあまり認知されていないことではないか。

逆に、近年日本では韓流ブーム・K-POP ブームというものがあった。韓国のアイドル

グループが次々と日本でデビューを果たし、そのダンスや歌の完成度の高さに驚かされた。歌は韓国語のものが日本語に替えて歌われ、アイドルたちはこぞって日本語を勉強していた。中には、バラエティーに出演して、通訳なしで会話ができるほど日本語を話せるグループもあった。そのように頑張って日本語を話そうとする姿は、日本人の目に好ましく映ったことだろう。また、韓国ドラマも人気で、とくにチャン・グンソクが出演している「美男（イケメン）ですね」は、日本版にリメイクまでされた。それとは逆に、日本の「花より男子」は韓国で人気となり、韓国版にリメイクされていた。

このように、サブカルチャーに注目して見ると、日本と韓国は互いに好みあう面があることがわかる。だが一方で、日韓関係を政治的な面から見ると、あまり友好とは言えない。例えば、竹島問題である。長年くすぶり続けてきたこの領土問題だが、8月10日に韓国の李明博大統領が竹島に上陸し、再熱し始めた。まさにASCのプログラム中のことである。この問題に関しては、日本の外務省ホームページにて「竹島は、歴史的事実に照らしても、かつ国際法上も明らかに我が国固有の領土です。韓国による竹島の占拠は、国際法上何ら根拠がないまま行われている不法占拠であり、韓国がこのような不法占拠に基づいて竹島に対して行ういかなる措置も法的な正当性を有するものではありません。」と明示されている。だが一方で、韓国側は「韓国が日本より先に竹島を実効支配しており、それを日本が奪った。」と主張している。私には、何が正しい情報であるのか、どちら側が正しい主張をしているのか、判断し難い部分がある。だがひとつ思うことは、政治的には友好でなくとも、日韓の国民同士の関係は友好であるということだ。それは、ASCで出会った仲間との交流を通じて証明された。彼らとは、これからもずっと連絡を取り続けるつもりだ。日韓関係を考えるときには、政治的問題と文化的交流を別にして考えていこうと思う。

## 『韓国の政治』

大阪支部 関西大学 1年  
阿部 紘子

大韓民国 首都：ソウル

憲法

- ・大韓民国憲法で、現在に至るまで、六回改変されている。

政治体制

- ・行政、司法、立法による三権分立制。

行政権は政府が持っている。そして、国民の直接選挙から選ばれる大統領（現在、李明博大統領）が統括する、という大統領制である。大統領の任期は五年で、再選は禁止されている。被選挙権は四十歳以上の韓国国民。選挙権は19歳以上の韓国国民に与えら



れており、在外韓国人にも与えられている。(申請が必要)大統領の権限としては、宣戦布告、条約の締結、法案や予算案の提出などがあり、また憲法違反などを犯さない限り弾劾されることもない。また重要事項の決定に国会の審議ではなく国民投票によって決める、という権利ももっている。さらに、休戦中ということもあって、軍の統括権も持っている。

行政の中心は大統領が議長を務める、国务会議である。国务会議は、大統領、大統領が任命する国务総理(日本で言う首相)、務総理が提案して大統領が任命する国务委員(大臣)、で構成されている。国务会議は、大統領の補佐機関として様々な話し合いがなされるが、その決定が大統領の決定を拘束することはできない。

立法権は一院制の国会にある。議員の任期は四年で解散はない。議員数は二百名以上ということが法律で定められている。(現在は議席数三百)選挙権は、大統領選挙と同じく十九歳以上の韓国国民、被選挙権は二十五歳以上の韓国国民に与えられている。主な政党は、セヌリ党(李明博大統領が出馬したときには、ハンナラ党)、民主統合党、統合進歩党などである。現在はセヌリ党が与党である。

司法権は、裁判所が持っており、日本と同じ三審制をとっている。トップが、大法院(日本でいう最高裁判所)でその次に高等法院、そして地方法院、家庭裁判所・行政裁判所、というふうになっている。大法院長は国会の同意と、大統領の任命で選ばれる。また任期は6年で、大統領と同じく再任は不可能である。定年は七十歳ということになっている。

大法院の下には、憲法裁判所というものがあり、これは法律が憲法に違反していないか調べるところである。憲法裁判所は、九人の裁判官で構成され、任期は6年である。そして、これだけは再任も可能である。

また、今話題となっている選挙は、大統領を決めるためのものであり、十二月十九日に投票が予定されておる。決まった大統領は、第十八代目になる。

## 『韓国料理』

大阪支部 関西大学 1年  
岩倉 由來

韓国に行く前、僕はあまり辛いものが好きではなく、旨辛の意味が分かりませんでした。正直韓国に行く前は不安でした。でも、韓国について韓国料理を食べると、とても、おいしく、旨辛の意味がよく分かりました。気が付いたら、辛いけど旨いわーと言っていました。

まず、食べたのがあさりのビビンバ!!!ただ辛いだけでなく、辛さにコクがあって、お

いしかったです。白米が日本の白米と全然変わらないので、ビビンバに限らず韓国料理全般が食べやすかったのではないかと思います。ASC 初日に食べたカレーは日本と味が同じで違うところと言えば、フクシンズケやラッキョをのせるのではなく、キムチをのせるところくらいで、キムチとカレーもよくあっていました。

キムチは、ホテルでご飯を食べるとき、常に付け合せとしてでてきました。キムチは僕の中で奥が深いイメージがありますが、ひとつひとつの違いはわかりませんが、なんとなくニンニクの量の違いくらいは違いが分かったような気がします。

韓国のデザートはホットクを食べました。ホットクは出店などで売られていて、もちもちの食感の生地の中にアンコが入っていて、ナッツをふりかけて食べる食べ物で、あんぱんと似ているようだけど違うホットクならではの食感でおいしかったです。

韓国の麺類はどれもツルツルしていました。ミッションゲームの時に食べた冷麺はフォーのような感じなんだけれども、こしがあって、おいしかったです。韓国で食べたジャージャー麺はあまり小麦の味を感じなかったけど、たれがよく絡んでいておいしかったです。

韓国にも辛くない料理もあり、牛肉を煮込んだ料理や、卵の料理なども口の中に久しぶりに辛くない料理が入って体が辛さに構えなくて済んで、何だか安心しました。

韓国で初めて食べた牛の肺はとてもおいしかったです。

青唐辛子の辛さは爆発的でした。

韓国には辛い食べ物や熱い食べ物がいっぱいありますが、どれもこれもおいしいし、たまに食べる、辛くない料理がまたおいしく感じるし、韓国料理をととても好きになれました。また、韓国に行きたいです。

## 『韓国の食文化』

京都支部 同志社大学 1年

梶原 拓也

韓国に行く前の僕の韓国に対する食文化に対するイメージは「辛い」しかありませんでした。しかしASCを通して韓国の食文化の知識をたくさん身につけることができました。特に三つのことを書きたいと思います。

まず第一に韓国の食器についてです。日本にある韓国料理店でも見られるように箸には金属が使用されていました。しかし同じ金属でも軽いもの重いもの種類が分かっていました。またお土産にも金属の箸が人気でした。なぜ金属の箸が使用されているのかASCメンバーから聞くことができました。昔、韓国の王族はつねに暗殺の危険に晒されていました。その中でも毒殺がメジャーだそうです。なので、毒に反応する鉄の箸は重宝されていたそうです。

次に韓国の「辛い」についてです。やはり韓国料理は辛いというイメージがありますよね。まあ実際辛いんですけど（笑）日本でいう「辛い」と少しずれているところがあるのではないかと感じました。なぜならスイートパーティで持って行ったわさび味のお菓子はとても評判が悪かったのです。辛さに関しては得意であるはずの韓国人がわさびの辛さには耐えられませんでした。ということは日本独特のわさびのピリッとした辛さは韓国では辛さと認識されていないのではないかと感じました。韓国人に聞いてみるとやはり辛いというより痛いと言っていました。結果的に日本の辛いと韓国の辛いではニュアンスが若干違うということがわかりました。韓国の代表的な辛いやはりキムチだと思います。どこで食事をしていてもキムチはついてきます。家によって自家製のキムチの味は違うそうです。ソウルフードといっても過言ではないでしょう。あとは唐辛子を使った料理が非常に多かったです。バスで移動していてもいたるところに唐辛子畑がありました。前菜としても緑の唐辛子が生でてきて味噌で食べてもとても辛いです。少しおなか壊しました。

最後は韓国の主食についてです。韓国の主食は日本と同じで米です。しかし韓国と日本の異なるところは前菜の多さだと思います。先ほども述べたキムチをはじめ漬物など少なくとも4, 5種類の前菜が出てきます。頑張れば前菜でおなかいっぱいになります。そうすると米を食べる機会が減ります。実際、焼き肉を食べに行った時でもご飯を食べることはありませんでした。不思議と違和感を感じなかったのはやはり前菜と料理の量の多さです。また米を食べるときは箸ではなくスプーンを使っていました。基本はスプーンで、スプーンで食べづらいものを箸で食べるというイメージでした。

僕はASCを通して韓国の食文化で知ることにより、日本の食文化を再確認することができました。韓国と比較することによりたくさんのお話を学ぶことができました。

### 『メディアで報道される韓国のイメージ』

京都支部 同志社大学 1年  
永田 良也

今回僕が選んだテーマはメディアで報道されているイメージについてです。

私たちはお隣の国、韓国についてどのようなイメージをもっているのでしょうか？人それぞれだと思いますが、何人かの人は差別を含んだ用語で呼ぶなり、不必要に韓国人の集団は危ないなど言うかもしれません。ぼくの近所は低所得者の方が多く、在日の貧しい方々もたくさんいます。夜になると集団で集まる光景は小学生のころは怖かった。そのうえ、周りの大人たちは集団に気をつけなさいなど僕に言っていました。しかし、僕はなぜみんなこのように言うのだろうかと思いに思っていました。なぜなら僕の韓国人や中国人の友達にはみないいい人で仲良くしていたからです。今回のASCを通じて改めて、

偏見は持つべきでないと思いました。誰も日本の悪口を言う人はいないし、いろいろな会話をできました。

では、なぜ複数の大人はそのような偏見を持っているのでしょうか？かつて、大人に“なぜ韓国人に偏見を持っているの？”と尋ねてみたら、“テレビがなんか言ってるやん”などと適当な答えしか返ってきませんでした。実際韓国人に直接何かひどいことをされたわけではないようです。

テレビや新聞、雑誌の内容がすべて虚偽だとは思いません。少なくとも誇張している場合はあると考えています。一種の洗脳と言っても過言ではないでしょう。やはり、世の中のことすべてを鵜呑みにすべきではない。自分でどの情報が正しいか選択する必要があるでしょう。ASCのような現地に行き、交流するプログラムは相手国への偏見を取っ払い、真の情報を手に入れる機会になるかもしれない。

### 『韓国の英語』

京都支部 同志社大学 1年  
本間 周英

私は現在大学で、英語でのコミュニケーションを学んでいます。そのため、韓国人の話す英語について興味がありました。韓国も日本も外国語として英語を学んでいる国です。このタイプの国の人と英語でコミュニケーションをとることは、なかなかレアなケースだと思います。そう考えるとASCはとても貴重な経験でした。

僕は正直、韓国人に自分の英語がしっかり通じるか心配していました。実際、韓国メンバーと会話してみると、意外と通じるし、単語、単語でもコミュニケーションが取れました。しかし、僕が今まで日本で学んできた単語の発音やイントネーションと異なる部分が多くあることに気づきました。正直、どっちが正しいのかは分かりません。そのため、最初の頃は「sports」や「bus」といった簡単な単語も通じず、慣れるまでは、多少苦勞しました。

僕は、ある日、英語がペラペラに近い韓国メンバーと仲良くなりました。しかし、ペラペラに近くても韓国の訛りのようなものを含んだ英語でした。その人とASC期間中、かなり会話しましたが、やはり日本人と韓国人の話す英語がちよくちよく異なっており、最初のほうは難しい内容の会話ができませんでした。時間が経つにつれ、ある程度問題なくコミュニケーションが取れるようになったのですが、そのころには、その友人の英語に影響され、韓国訛りが自分にうつっていることに気づきました。日本と韓国どちらの英語がより正確なのか分からないので、これがメリットなのか、デメリットなのかは分かりません。しかし、少なく

ともその友人と話す時は、話しが通じやすくなるため便利でした。相手の国の人に適応することは、コミュニケーションを取る際に大切であると感じました。

これらのように、ASC では結構な頻度で英語を話す場面がありました。これらを通して、もっと英語が話せるようになりたいと思いました。また、共通語として異国間でのコミュニケーションの手段となる英語はとても便利だと実感しました。

### 『韓国の食文化』

九州支部 北九州市立大学 2年  
児玉 和輝

韓国の食について書きたいと思う。まず、韓国の食事について驚かされたのは毎回の食事で前菜として必ずキムチが出てきたことだ。ASC 中や After ではいろんな店にご飯を食べに行ったのだが、どの店でも出てきた。また、宿泊先のユースホステルでも毎食出てきた。

当然、出てくるご飯自体も辛いものが多かったので口の中がだいぶマヒしたためか、日が経つにつれ、キムチの辛さは全く気にならなくなった。あと、韓国での焼肉は焼肉のタレというものが無いようだった。塩コショウで食べるか、香辛料をつけて食べるかのどちらかだった。日本とは違う食べ方ができ新たな発見だった。

次に、食器に関してはほとんどが銀の食器や銀のはしだった。1回だけ外で BBQ をしたのだがその時だけは割り箸だった。銀製の食器は熱が伝わりやすいので、熱いものを食べる時は少しだけ苦労した。

飲み物に関しては、日本とたいして変わらなかった。ただ、ビールに関しては日本のビールの方がおいしく感じた。ソジュに関してはあまり飲みたくはなかった。2つをミックスしたものは何とも言えなかった。飲み会はこの3種類で1週間やりぬきました。韓国での飲み会を通して感じたことは、韓国ではカクテル系はそんなに飲まれないのかなということを感じた。そのため、ビールや焼酎が苦手な人には韓国の飲み会はきついかもしれない。

多少違うところはあるが、ほかの国と比べると日本と似ているところは多いのかもしれない。

### 『韓国の食文化』

九州支部 北九州市立大学 2年

杉本 美咲

韓国料理の一食の構成は、メインメニュー（多くはスープ類）にご飯と、キムチ、ナムル等のおかず（ミッパンチャン）が数種類という組み合わせです。食堂ではキムチなどのミッパンチャンは無料で供され、お代わりも自由です。一般におかず類の味付けには醤油、胡麻油、ニンニク、ネギ、生姜、唐辛子等による合わせ調味料「ヤンニョム（薬念）」を用います。野菜や山菜からなるナムルは各家庭で常備してあり、毎回の食事で多種類のおかずが食卓に並ぶように配慮するのが一般的だそうです。また、韓国は寒冷的な気候から保存食である発酵食品が発達しました。テンジャンやコチュジャンといった味噌類やキムチ、マダラの内臓を発酵させたチャンジャ等です。これらは各家庭で作られるのが一般的で、保存食としては、他に魚の干物等や乾燥させた山菜や海草類も作られています。そして、韓国料理はなんといっても辛いものがとても多いです。これはそこに住む人々の好みもあるかもしれませんが、環境も大きく関わっていると感じます。寒冷的な気候では保存食はもちろん体を温めてくれる辛いものも大事。つまり食と環境は切っても切り離せないものなのです。

### 『韓国の食文化』

九州支部 北九州市立大学 2年

長家 つきは

私は食べるのが大好きだ。中でも最近辛い物にはまっていて、韓国料理を食べることはこのASC中の大きな楽しみの一つであった。実際にASCの間、毎日のようにおいしい韓国料理を食べることができて非常に幸せだった。ASC中に私が感じたことをふまえながら韓国の食文化について書こうと思う。

韓国の主食は日本と同様にお米である。ご飯を主食としながら、肉料理や魚料理、野菜を使った料理などが加わり、栄養バランスの取れた献立が特徴である。韓国の米は日本同様粘り気があって炊いて食べるのに適しており、お粥にしたり炒めて食べたりと様々な米料理がある。また、米以外にも、小麦や蕎麦などの穀物を素材とする麺類もよく食べられる。

唐辛子や薬味野菜を多用するのも韓国料理の特徴である。唐辛子は生のまま、あるいは粉状にして、料理はもちろん調味料としても多用される香辛料である。また、韓国料理はニンニクやネギ、生姜など香味野菜がたくさん使われる。特に、ニンニクの消費量は多く、韓国料理がスタミナ料理と言われる理由の1つでもある。

また、味付けに欠かせないのが大豆発酵食品である。韓国でも基礎調味料として、カン

ジャン（醤油）やテンジャン（味噌）がよく使われる。見た目は日本のものと変わらないが、実際に口にしてみると味や香りが微妙に異なる。他にも唐辛子粉を加えて作るコチュジャン（唐辛子味噌）などがある。

実際に私が毎日食べた韓国料理は、ほとんどが辛い料理だった。ビビンバの上や冷麺の上にはコチュジャンが乗っていて、韓国料理には欠かせない調味料であることがわかった。

お隣の国で主食も日本と同じお米だが、食事のルールは日本と異なる点が多々ある。韓国では、ステンレス製の箸とスプーンを使って食事をする。並べ方にも特徴があり、日本とは異なって膳の右側に縦にそろえて置く。このとき、箸は右側にスプーンは左側に並べるのが正しい並べ方である。スプーンはご飯や汁物、水キムチなどを食べるときに、箸は汁気のないおかず類を食べるときに使う。よく知られているルールに、椀は手に持たず食卓に置いたまま食べるというのがある。茶碗やお椀を手に持って食べる日本に対し、重くて熱を通しやすいステンレス製の食器が使われる韓国では、器は食卓に置いたまま、スプーンで食べる習慣がある。特に年配の人々には「食器は手に持って食べない」という意識が強く残っているようだが、膳が遠くて置いたまま食べるには不便な場合や、持っても熱くない金属製以外の食器である場合など、その時々状況によっては器を手にすることもあるそうだ。実際に韓国の人が食事している姿を見ていると、なかにはお椀を持って食べている人もいた。同世代のASC参加者の皆はお椀を持っていることが多かった。

また、韓国で食事をする際、周りを見ていて気になったのが食べるときの座り方である。膝をたてて食べる人がたくさんいることに驚いたが、調べてみると、男性はあぐら、女性は片膝を立てるのが韓国式だそう。片膝を立てて食事することは日本では行儀が悪いとされるが、韓国ではそうでないことが分かった。

最近非常に近く感じる韓国ですが、食文化や食事のルールひとつとっても、日本とは異なる点がたくさんあることが分かった。実際に韓国に行ってそれらを自分の目でみることで理解も深まったと思う。

### 『韓国の反日感情』

九州支部 北九州市立大学 2年  
増永 美紀

私は大学で韓国・北朝鮮の政治外交についての講義を受講し韓国について学んでいたことや、普段は温厚なイメージがある韓国人が従軍慰安婦問題や韓国併合などの歴史問題においては過激な行動をとったり反日感情を抱いていたりしているところをニュースなどでみていたこともあり、韓国の学生とうまくコミュニケーションがとれるのだから

うか、又歴史などが原因でトラブルが起きてしまうのではないかという不安がありました。これから韓国の参加者と交流ができるという楽しみやネイティブの韓国語を聞く事ができるので勉強になるという期待もありましたが、やはり不安はすぐには消えませんでした。現地に着き初めて顔を合わせたときはお互い緊張していたものの、夜にしたゲームではすぐに仲良くなることができ、驚きを感じるとともにとてもうれしかったです。母国語が違い英語もそれほどうまく話せない私達が仲良くなるには言語はそれほど重要ではなく、大切なのは互いを知ろうという気持ちや相手の意志を汲み取ろうとする姿勢なんだと感じました。プログラム中印象に残ったのは韓国の伝統歌謡を見に行った時です。歌や演奏ももちろん印象的でしたが、それが終わり御手洗に行った時韓国人のおばあさんたちに韓国語で話しかけられました。「日本人?」、「大学生なの?」などフレンドリーに話しかけられ、それを理解し参加者ではない韓国の方とコミュニケーションをとれたことは貴重な体験になりとてもうれしかったです。またその際年輩の方は反日感情をもっているという偏見を持っていましたがそのことを恥ずかしく思いました。滞在中竹島問題が表面化しましたが、ひどい差別もなく竹島問題に関するトラブルも起きることなく安全にプログラムを終えることができ、韓国に対するイメージが変わりました。マスメディアは一部の人を映し出しているに過ぎず全ての人が反日ではなく親日の人も多くいるということを身をもって感じる事ができた充実したプログラムでした。

### 『韓国の映画・ドラマ』

九州支部 北九州市立大学 2年  
山崎 雄一

昨今、日本で韓流ブームが巻き起こっているが、その火付け役となったものが、韓国の映画、ドラマである。韓国でヒットしたドラマが日本でも放映され、これまでに「冬のソナタ」「チャングムの誓い」など数々の大ヒット作品を生み出している。その影響は日本だけにとどまらず、台湾、中国、アメリカまでに及ぶ。私が特に強調したいことは、韓国で作られた映画、ドラマのリメイク作品が数多く存在することである。日本でリメイクされた作品でいうと「私の頭の中の消しゴム」「猟奇的な彼女」などが、アメリカでリメイクされた映画でいうと「イルマーレ」などがある。どちらの作品も大ヒットを記録したものの、その原作が韓国のものであると知っている人は少ないように思う。また最近では、フジテレビの韓流推進の動きに反対する団体がフジテレビ局前に詰め寄ったという事件が起こるなど、韓流へのバッシングは強まっている。韓国とは竹島問題などで友好関係に亀裂が生じている。このようなときだからこそ文化面では交流を続けていくべきだと思う。



## 『韓国の宗教』

九州支部 北九州市立大学 2年

吉武 実保

韓国の宗教人口は全人口の約半分であり、韓国人にとって宗教は身近な存在である。旧正月(ソルラル)や秋夕(チュソク)といった名節に行われる先祖供養の儀式「茶礼(チャレ)」や仏教・キリスト教系の放送局、新聞社も存在する。そして、教会も多く設置してある。

韓国の宗教の内訳はというと、最も信仰者の多い宗教は仏教で22.8%。若干の差でプロテスタント18.3%が続き、以下カトリック10.9%、儒教0.5%、園(ウォン)仏教0.2%の順となっている。韓国人はキリスト教信者の多い。プロテスタントとカトリックを合わせると宗教人口の3割近くを占めるが、これは東アジアの中でもフィリピンに次いで高い割合だという。

そして、驚くことに、儒教文化が生活の隅々に残る韓国だが、意外にも儒教を信仰している人は少ない。韓国では儒教は宗教というよりは、一種の生活習慣、または社会常識として国民の意識に定着しているのである。ここで、儒教の説明をすると、儒教は朝鮮時代から約500年間にわたり国教とされてきたものである。確実な伝来時期は不明だが、三国時代に唐から伝来したといわれる。儒教は孔子の教えを学び、行うもので、「仁・義・礼・智・信」が重んじられる。朝鮮時代に儒学の最高学府であった成均館では、春と秋の2回、孔子の祭祀「稷奠大祭(ソッチョンテジェ)」が執り行われている。

また、朝鮮王朝歴代王と王妃、および没後に位を贈られた人々の神位が安置されている「宗廟(チョンミョ)」は、儒教的価値観に基づき建てられた王室の霊廟。現在も毎年5月の第1日曜日には、王族の子孫たちによって王室の祭礼儀式「宗廟大祭(チョンミョデジェ)」が行われている。

韓国には日常生活でも儒教の影響を受けた様々な文化が存在する。名節に行われる祭祀や土葬の習慣、タバコ、食事・酒席でのマナーなどがその代表的な例である。ASC中の韓国人とのやり取りを見ていても、年上は絶対敬うことを心掛けていて、普段の生活で年長者を敬うという儒教精神が根付いていることが分かった。このように、韓国人にとって、儒教は伝統的で、大切なものである。

## 『韓国の食文化とサービス業』

九州支部 北九州市立大学 1年

赤木 唯花

わたしは、ASCを韓国で過ごすことによって、韓国の食文化に興味を持ちました。

まず初めに驚いたことは、日本では箸は木製であるのに対し、韓国では鉄製の箸を使うということです。このことについて初めて気づいたのは、フェリーでの夕食の時だったのですが、けっこうわたしはびっくりしました。鉄の箸なので、熱いチゲ鍋などを食べると、熱さがダイレクトに伝わってじゃっかんやけどしたり、木製の箸と比べて重くて使いづらかったりしたけれど、ASC 期間中毎日鉄製の箸を使っていくことによって、慣れていきました。

次に気づいたことは、食事のときには毎日キムチが必ずでるということです。韓国といえばキムチというイメージは強いけれど、まさか毎日キムチがでてくるとは思いませんでした。それに、韓国のキムチは日本のキムチよりも辛くておいしかったです。やっぱり本場は違うなと思いました。あと、やっぱり韓国のひとは辛い物に強いなとも思いました。夜に辛麺を初めて食べたとき、わたしは辛すぎて全然食べることができませんでした。しかし韓国の人たちは、あんなに辛い辛麺を普通に食べていました。小さい時から辛い物を食べ続けているから、辛さに強いのかなと思います。しかし、シシトウは例外でした。あのシシトウは、日本の人たちだけでなく、韓国の人たちにとっても辛いようです。

わたしはまた、韓国のサービス業についても興味を持ちました。

釜山の地下街に買い物に行ったとき、たくさんの化粧品店がありました。わたしはこの化粧品店で働いている店員さんが、1つの店につき、最低1人が日本語を話せていたことに気づきました。しかも、普通に会話をしたり、店の商品を宣伝したり説明したりできるくらいの日本語のレベルでした。また、飲食店の店員さんや、服屋の店員さんの中にも、日本語を流暢に話せる人がたくさんいました。さすが教育がものすごく進んでいる韓国だなと思いました。

また、韓国の飲食店での接客にも驚きました。わたしは韓国の接客はいろいろと適当である気がします。例えば、まだお客さんが席にすわっているのに、机の上の皿を片付け始めたりしていました。空いている皿であれば、お客さんがまだすわっていたとしてもさげるけれども、全体的な片付けは、お客さんが帰った後にするものではないのかなと思いました。でも、そのような韓国の接客は、アットホーム感を味わえるので、それもいいなと思います。

## 『韓国の食文化と環境』

九州支部 北九州市立大学 1年

石野 詩織

私は韓国の食文化と環境のことについて驚くことがたくさんありました。まずお店に入るとたくさんの小皿がテーブルに並べてあります。しかもその中には色々な種類の食べ物が入っていました。そこから自分の食べたいものを注文するのです。わたしはその

小皿に入ったものだけでお腹いっぱいになりそうに多々なりました。しかしその後料理は運ばれてきます。驚く量の食事が運ばれてきます。毎回量が多すぎて食べ切れませんでした。日本だと料理の前に大量の小皿に入った食べ物は出てきません。私は韓国人の胃袋が大きいので小皿のものも全て食べきるのかなと思ってみるとそういうわけでもなくテーブルの上に残ったままという状態をよく目にしました。その時に私はもったいないという思いはあるのかなと思いました。日本人の感覚だにご飯を残すのはとてももったいないと感じてしまいますが、韓国の人達はあまりもったいないとは考えず残すのが当たり前という考えに近いようでした。

二つ目は韓国の環境です。韓国に行く前は衛生面があまりよくないだとかいうことは一切考えてなく日本と同じような感じだろうというように日本をたちました。すると初日に初めてトイレを使った際にかなり驚きました。トイレットペーパーが流せないのです。横にバケツのようなものを使ったトイレットペーパーを入れていくのです。これにはかなり驚きました。衛生面的にもよくないことだしびっくりしました。匂いもトイレからかなりしていました。日本がトイレットペーパーを流せるのが当たり前なので日本の環境がどれだけよいものなのかを実感しました。

## 『韓国の歴史』

九州支部 北九州市立大学 1年  
池上 聖子

今日、経済的にも文化的にも発展している大韓民国であるが、その歴史は1948年から始まる。私は今回のASCで初めて実際に韓国に行った。初日と最終日は釜山で買い物や食事をしたのだが、韓国の繁栄と発展に驚いた。

中学高校と日本史の勉強をしたが、その時韓国と日本が関連した出来事も学んだ。それにより私は韓国の歴史に興味をもつようになった。今回韓国に行けるといい機会をもらえた為、以前から興味があった歴史について調べた。これを今回のテーマにしようと思う。

韓国の歴史は60年である。朝鮮半島は冷戦の影響により南に大韓民国、北に朝鮮民主主義人民共和国と分裂した。韓国の政治体制はアメリカが整え用意したものだった。そして1950年から1953年の間朝鮮戦争が起き、軍部の成長は収まらなくなる。クーデターを起こし、軍事が政治をとり行ったり、アメリカに強く希望してベトナム戦争に参戦したりした。その結果「漢江の奇跡」と呼ばれる特需による経済成長が起こった。これにより韓国は準先進国の地位を確立した。しかし1970年代の米ソの歩み寄りに同調する形で北朝鮮と韓国の統一論が韓国国内に沸き起こり、軍政権の旗色が悪くなり始める。軍政権打倒を叫ぶ民間人が増え、軍政権のリーダーが暗殺されることもあった。そうした民間人は、武力で

抑え込まれながらも、民主化の要求の勢いを年々強めた。そして軍部では抑えられなくなった。この民間人による反軍政府活動の例には、世界的に見ても大規模である「6月民主抗争」というデモがあり、180万人以上が参加した。これらの活動を行った結果、韓国では民主的な選挙が行われるようになった。そして現在の韓国へと繋がる。

以上がASCに参加する前に調べたもののまとめである。私たちが初日に泊まったユースホステルのある光州市では「5.18 光州民主化運動」という運動が起こった場所だ。今となつてはそのようなことが起きていたなどと全く感じられなかったが、その地に行ったことでさらに興味が湧いた。

私は韓国の発展を学校やニュース、新聞など様々なところで聞いたが、この短い期間でこんなに発展するものなのかと驚いた。テレビの映像や写真と、実際に行つて見るものとは違いがあり、想像を超えていた。現地に行つて、今の韓国を体験することができてよかったと思う。

### 『韓国人の国民性』

九州支部 北九州市立大学 1年  
伊集院 怜美

韓国渡航前、韓国人は日本人のように周りを思いやり、協調しようとする性質があるのかをテーマに設定し、プログラム中も主にそれらに注目するようにしていた。韓国ドラマを見ている限り、我が強いように思えてならない韓国人だが、実際はそうでもなかった。コミをとつても参加者をとつても、周りを気遣い、思いやりにあふれた人ばかりだった。他国で経験したときと同じく、コミュニケーションを図るときも、相手に伝えようとする意思の感じられる応対であったし、ハングルが読めず苦勞するであろうわたしたちのために、日本人側が質問をする前に気持ちをくみ、先取りして教えてくれた。また、困る度に手を差し伸べてくださった方々のおかげでアフターの3日間を乗り切ることが出来た。彼らのそういった行動は、韓国人も周囲に気を配ることの出来る民族であるという、良い認識を与えてくれた。

しかし一方で、街に出てみると、平気で人を押しどかし通行する人々にあふれていた。どこに行つても、少し立ち止まれば押しのけられる状況に、腹立たしい気持ちになることもしばしばあった。お店にいたつても、こちらが商品選びに時間をかけるとため息をつき、購買意欲がないと感じ取ると、手から商品をひったくる始末だ。落ち着いて買い物も出来ず、ストレスばかりが溜まっていくのを感じたアフターの日々だった。仕事中に店の中で、商品の側で食事をとり、平然と携帯電話をいじり、客を客と思わない店員たちを見る度に、日本の質の高さを実感した。たくさんの方々に助けられたアフターではあったが、そういった面はたとえ地に根付いた文化、伝統だと言われても、容易

に受け入れられるものではないと感じた。

以上のことより、韓国人には、個人個人の関わりを持つ相手には協調性を持って接するが、そうでない相手には協調性を持たずに行動する人々が多いのではないかと考える。

### 『韓国のファッション』

九州支部 北九州市立大学 1年  
加島 杏理

韓国で特に気になったのは若者のファッションについてです。まずたくさんの若者を見ていくなかで最初に気づいたのは、女の子がタイツをはかず生足だったことです。2週間韓国にいましたが、1人もタイツをはいている女の子は見ませんでした。そして、着ている服は日本のファッションと似ていましたが、やや奇抜な色が多かったように感じます。そして男の子は伊達メガネをかけている人が多かったです。そして男の子も奇抜な色の服を着ている人がとても多かったです。

### 『韓国の食文化』

九州支部 北九州市立大学 1年  
川内 結香子

食文化的には小麦や蕎麦、高粱や、トウガラシ、トウモロコシといった畑作で得られる穀物を主食素材としてきた地域も多い。栽培された野菜及び、ワラビ、ゼンマイ、キキョウ（トラジ）といった山菜の消費量が世界的に見ても高く、それらを用いたメニューが多い。また海に囲まれた地理ゆえ、海藻類や魚介類の消費量も多く、魚介類の生食も行なわれるようになった。韓国では一般家庭では肉よりも魚や野菜を主とした食卓が普通であった。日本料理や中国料理と比べ、スープ類が多く、唐辛子を用いた料理が多い。唐辛子は元々中南米原産だが、17世紀に日本を経由して朝鮮半島に入り、現在の韓国・朝鮮料理に彩りと辛みを添える上で欠かせない食材の一つとなっている。また、五味（甘、辛、酸、苦、塩）五色（赤、緑、黄、白、黒）五法（焼く、煮る、蒸す、炒める、生）をバランスよく献立に取り入れること意識している。一食の構成は、メインメニュー（スープ類）に御飯（白米、赤米や、雑穀米など）と、キムチ、ナムル等のおかず（ミッパンチャン）が数種類という組み合わせであり、韓定食の飯床（パンサン）のルールにある程度従っている。食堂ではキムチなどのミッパンチャンは無料で供され、お代わりも自由である。粥や麺類等は軽食とみなされ、おかずの種類が少なめの小膳が組まれることが多い。一般におかず類の味付けには醤油、胡麻油、ニンニク、ネギ、生

姜、唐辛子等による合わせ調味料「ヤンニョム（薬念）」を用いている。肉は、牛、鶏、豚、またその内臓も使われる。野菜や山菜からなるナムルは各家庭で常備しており、毎回の食事で多種類のおかずが食卓に並ぶように配慮するのが一般的である。

食事には、金属製の匙（スッカラッ）と箸（チョッカラッ）を用いる。食器は、現在、白いプラスチック製やステンレス製が一般的である。ご飯や汁物は匙で食べ、汁のないおかずは箸で食べる。ご飯を汁物にひたし、混ぜて食べるのはルール違反ではない。食器は持ち上げず、置いたまま食べる。匙と箸を使って、食事を口に運ぶ。食器を持ち上げるのは、原則マナー違反である。

10日間ほど毎食韓国料理を食したが、どの料理も基本的に唐辛子の効いたスパイシーな料理が多く、日本食とはずいぶん違った。また、料理の品数も多く栄養が取れた食事が出来たと思う。また、食器を持ったらいけないなど韓国独特のルールもあり、戸惑うことも多かった。また、全体的に食事の量が多かったように感じる。ASCを通じ、身を持って韓国の食文化に触れることができ、よい経験になったと思った。

#### 『韓国の交通事情』

九州支部 北九州市立大学 1年  
竹本 早希子

勉強会のためにしらべていてバイクが少ないということをしりました。ほんとかなと思っていただけ実際行ってみるとほんとに大きい道路では車ばかりで車もほとんど同じ形のものばかりでした。日本だったらいろんな種類の車があるけど韓国の車はほとんどが乗用車でした。タクシーは誘導員さんみたいなひとがいるところはあんまり怖いと感じなかったけど怪しいかんじの個人タクシーの人で日本人だとしてすごく話しかけてくる人が少し怖かったです。改造しているかんじの怖そうなタクシーに乗る機会があって乗るの怖いなと思ったけど普通にタクシーのおじさんが優しかったです。韓国の地下鉄は最初とまどったけど、ソウルの地下鉄で表示がすごくわかりやすいということに気が付きました。番号で駅が表示してあったし日本語表示もあったから切符も買いやすかったです。地下鉄の建物の構造が迷路みたいに複雑ですごいなとおもいました。たまにエレベーターがなくておっきい荷物だとたいへんでした。あと KTX に乗ったときチケットを買ったけど行きも帰りも改札みたいな通すところがなくてすごくびっくりしました。あと、新幹線みたいに速いのかと思ったら普通の電車みたいにゆっくりだったからそれにもびっくりしました。KTX はびっくりすることがいっぱいでした。

#### 『韓国の文化』

わたしは今回の ASC で初めて韓国に行きました。韓国の文化について知っていることは、儒教の国だから目上の人や親を敬う気持ちが強いことや、食事の際には食器を待たないというようなことくらいでした。実際に韓国の学生と交流してみると、気付いたことがいくつかありました。たとえば、食事の際には、基本的には食器を持ち上げてはいませんが、数人持って食べている人もいて、もしかしたら最近では絶対的なルールではなくなっているのかなと思いました。

一番驚いた文化の違いはトイレ事情です。韓国では、トイレットペーパーを直接便器に流すのではなく、個室内に置いてあるゴミ箱に捨てます。どうやら、まだ紙が高級品だったころ、葉っぱや草で代用していた為、流さない習慣が残っていること、また、下水管が細く、紙を流すと詰まってしまう恐れがあることなどが理由のようです。それが韓国の文化なので、「郷に入れば郷に従え」ということできちんとゴミ箱に捨てましたが、やはりちょっと抵抗感がありました。臭いもひどかったです。ゴミの分別が徹底されていない点を見ても、どちらかという日本人のほうが衛生面や清潔さに細かいのではないかなと感じました。あとは、道やお店などの公共の場でカップルが普通にいちやいちやしていることにも驚きました。日本ではあまり良い目では見られない行動ですが、韓国では当たり前のような様子でした。また、男性はすごく紳士的で優しかったと思います。

今回がわたしにとっては初めての海外だったので、全てが新鮮でした。文化の違いに戸惑うこともありましたが、違いがあるからこそたくさんを学べたと思います。

### 『韓国の徴兵制』

韓国の男性は18歳で徴兵検査対象者となって19歳までに検査で兵役の判定を受けます。検査は、心理、身体、適性分類、兵役処分判定の4段階に渡って行なわれ、医師の診断、経歴、資格や適性検査をもとに判定結果が出ます。判定が1～3級の人、現役4級は補充役、5級は、第二国民役、6級は兵役免除者、7級は再検査対象者となります。1～4級判定者は、30歳の誕生日を迎える前までに入隊しなくてはなりません。20歳～28歳で、各種高校、2年制・4年制大学、大学院、師範研修院の在学者、一部大学浪人生は、入隊時期を延期することもできます。そして、検査と判定を受けたすべての兵役義務者は、新兵訓練所で基本軍事訓練を受けます。基本軍事訓練の期間は、陸軍5週間、海軍5週間、空軍6週間、海兵隊7週間です。基本軍事訓練を受ける「訓

練兵」期間を経た後、現役兵や公益勤務要員など判定結果に従い各自配属先で服務に従事します。戦争や危機状態を想定した厳しい軍事訓練とともに、通信、料理、運転、広報、憲兵、夜間警備など各自の任務を遂行します。この時、例えば外国語に長けている場合は、駐韓米軍で韓米合同作戦関連の任に就いたり、DMZなどのツアーガイドに任じられることもあります。他にも現役なら芸能兵(国防広報院広報支援隊)や軍楽隊、また補充役の公益勤務要員など、服務形態は多岐に渡っています。

## \*ASC17th 持ち物リスト

### ● 必需品

- |  |  |
|--|--|
| <input type="checkbox"/> パスポート               | <input type="checkbox"/> チケット(飛行機 or フェリーなど) |
| <input type="checkbox"/> 現金                  | <input type="checkbox"/> 携帯電話                |
| <input type="checkbox"/> 文房具                 | <input type="checkbox"/> 充電器(携帯電話、デジカメなど)    |
| <input type="checkbox"/> 変換プラグ               | <input type="checkbox"/> 服                   |
| <input type="checkbox"/> 下着                  | <input type="checkbox"/> ジャージ                |
| <input type="checkbox"/> 歯ブラシ                | <input type="checkbox"/> お風呂用品(シャンプーなど)      |
| <input type="checkbox"/> タオル                 | <input type="checkbox"/> 薬(常用薬、胃薬、下痢止めなど)    |
| <input type="checkbox"/> メガネ、コンタクト(予備もあると良い) |  |

### ● 持って行って役に立ったもの

- |                                      |                                     |
|--------------------------------------|-------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 変圧器         | <input type="checkbox"/> ドライヤー      |
| <input type="checkbox"/> デジカメ        | <input type="checkbox"/> クレジットカード   |
| <input type="checkbox"/> 圧縮袋         | <input type="checkbox"/> 水着         |
| <input type="checkbox"/> クロックス、スニーカー | <input type="checkbox"/> 日焼け止め      |
| <input type="checkbox"/> 洗濯バサミ       | <input type="checkbox"/> ひも(洗濯物干し用) |
| <input type="checkbox"/> 洗剤          | <input type="checkbox"/> ウエットティッシュ  |
| <input type="checkbox"/> ハンガー        | <input type="checkbox"/> 洗濯用ネット     |